

1 年 次 生

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	アンサンブル I	内田、寺沢、石川、 山本(英)、宮永、河野

科目概要

ジャンルや演奏スタイルといったカテゴリーに分類された楽曲をもとにバンドアンサンブルについて学びます。
1・2クォーターでは8ビートの楽曲が中心です。時代の背景を捉えた名曲を数曲取り上げ演奏します。

到達目標

カテゴリーに分けられた練習曲を演奏することでバンドでのリズムの捉え方やパート(楽器)ごとの役割、ジャンルを意識した演奏スタイルなどを学ぶと共に、ステージングやパフォーマンスについても研究します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション・課題曲の紹介	授業に必要な知識(予習の方法、楽器の取り扱い、試験までの流れ等)を説明するとともに、課題曲についての紹介を行います
第2回	8ビートの基礎1	楽曲を演奏しながら譜面の読み方、パートごとの役割などを学びます。例題演奏; Born To Be Wild など
第3回	8ビートの基礎2	ビートの感じ方、リフ、コードフォームなどを練習します。 例題演奏; Get Back など
第4回	8ビートの基礎3	裏拍の感じ方、休符を交えたシンコペーションなどを練習します。 例題演奏; Satisfaction など
第5回	8ビートの基礎4	楽器間の音量バランス、バンド全体の一体感のつかみ方などを練習し課題曲を完成させます。
第6回	1クォーターのまとめ	クォーター末試験(ライブ)に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。
第7回	クォーター末試験	スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。 評価ポイント参照

クォーター末試験評価方法

実技試験50%、平常点25%、出席点25%
※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲の紹介	2クォーターではシャッフルビート・3連系の楽曲を中心に練習します。
第2回	8ビートの基礎5	シャッフルの捉え方、リフ、ベースラインを練習します。 例題演奏; Can The Can など
第3回	8ビートの基礎6	楽曲の構成を理解します(Aメロ、Bメロ、サビなど)。 例題演奏; Some Kind Of Wonderful など
第4回	8ビートの基礎7	ペンタトニックを中心としたフレーズやアドリブを練習します。 例題演奏; Can't Get Enough など
第5回	8ビートの基礎8	ボーカルを中心としたバランス作り、コーラスなどを練習します。 例題演奏; Too Big など
第6回	8ビートの基礎9	クォーター末試験(ライブ)に備え、曲順やステージ構成、演出についてメンバー間でディスカッションしながら決定します。
第7回	2クォーターのまとめ	ライブを想定しながら、メンバー間のコミュニケーションや、パフォーマンスを練習します。
第8回	クォーター末試験	スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。 評価ポイント参照

学期末試験評価方法

実技試験50%、平常点25%、出席点25%
※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	アンサンブル I	内田、寺沢、石川、 山本(英)、宮永、河野

科目概要

ジャンルや演奏スタイルといったカテゴリーに分類された楽曲をもとにバンドアンサンブルについて学びます。

3・4クォーターでは16ビート・ブルースやバラードなどの楽曲を中心に授業を進めます。

到達目標

引き続きアンサンブルの基礎項目ともいえる楽曲の理解力を深めると共に、ジャンルやビートのもつ独特なノリや演奏スタイル、テンションコードを含めたボイスイングやコードフォームなどを学びます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲の紹介	3クォーターでは16ビートの楽曲を課題曲とします。
第2回	16ビートの基礎1	穏やかなビートの中でのグルーブの捉え方や、2.4拍のアクセントの感じ方などを練習します。例題演奏; Long Train Runnin' など
第3回	16ビートの基礎2	ブルーノートを多用したメロディアスなフレーズを練習します。例題演奏; Hard To Handle など
第4回	16ビートの基礎3	バンド全体のタイトなグルーブや休符がらみのフレーズ・パッキングの練習をします。例題演奏; Respect など
第5回	16ビートの基礎4	楽曲構成に合わせた表現力、メリハリを練習します。例題演奏; Rock'n Roll Is Dead など
第6回	3クォーターのまとめ	クォーター末試験(ライブ)に備え、曲順やステージ構成、メンバー紹介などの演出について練習します。
第7回	クォーター末試験	スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。評価ポイント参照

クォーター末試験評価方法

実技試験50%、平常点25%、出席点25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲の紹介	4クォーターではブルースやバラードなど、1~3クォーターで触れなかったリズムの課題曲を中心に練習します。
第2回	ブルース・バラードの世界1	ミドルテンポでの安定したリズムキープ、アルペジオ、楽曲の持つ雰囲気などについて練習します。
第3回	ブルース・バラードの世界2	ブルース進行でのコードフォームやウォーキングベースを練習します。
第4回	ブルース・バラードの世界3	オルタードテンションを使用したボイスイングやレガートなメロディを練習します。
第5回	ブルース・バラードの世界4	II-V進行でのフレーズやバンド全体のグルーブの捉え方を練習します。
第6回	ブルース・バラードの世界5	クォーター末試験(ライブ)に備え、曲順やステージ構成、演出についてメンバー間でディスカッションしながら決定します。
第7回	4クォーターのまとめ	ライブを想定しながら、メンバー間のコミュニケーションや、パフォーマンスを練習します。
第8回	クォーター末試験	スタジオブーカにてリハーサル後、ライブ形式で実施します。評価ポイント参照

学期末試験評価方法

実技試験50%、平常点25%、出席点25%

※実技試験はステージ形式で行い、バンドとしての見せ方、パフォーマンスなどを評価項目として、3人以上の講師立会いのもとで実技試験を行います。

プロミュージシャン 学科

学期	科目名	担当講師
春	プリプロダクション I	手塚雅夫

科目概要

プレゼンテーション用音源やデモ音源の制作方法を学ぶ過程を通し、レコーディングに関する技術的な基礎知識と演奏者としてレコーディングされる際に必要な経験を深めます。

到達目標

ポータブルMTRやDAWを使用し、基礎的なマルチトラックレコーディングの仕組みを理解します。
レコーディングされた自身の演奏を客観的に聴き、録音における技術的、及び演奏上の問題点を把握できるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プリプロダクションとは？	授業内容やクォーター末試験についてのガイダンスを行います。録音環境やレコーディング方法、及び作業の流れについて解説します。
第2回	レコーディングで使用する機材について。	マイクフォンを初めとするレコーディングに必要な一般的な録音機材について学びます。
第3回	ポータブルMTRを使用する(1)。	すでに録音済みのマルチトラックのデモ音源を使用し、ポータブルMTRの機能や操作方法を学びます。
第4回	ポータブルMTRを使用する(2)。	それぞれが担当楽器を演奏しポータブルMTRを使用した録音・再生方法を学びます。
第5回	課題曲[1]を演奏してみる。	課題曲[1]『Birthday』をオリジナル音源と譜面を参考に曲の構成と演奏方法を把握し、3ピース編成で演奏できるように実際に音を出しリハーサルします。
第6回	課題曲[1]をレコーディングしてみる。	課題曲[1]『Birthday』をポータブルMTRに3ピース編成で演奏し、同時録音してみます。
第7回	ポータブルMTRの基本的な操作方法	ポータブルMTRを使用する録音・再生の基本的な操作方法を理解できているかを判断します。

クォーター末試験評価方法

実技試験として、自らの楽器を演奏しポータブルMTRに的確に録音・再生する事が出来るかを課題とし、試験 50%、平常点、20%、出席 30%で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲[1]をミックスしてみる。	ポータブルMTRにレコーディングした音源を用いて、ポータブルMTR内部でのミックスダウンの方法とマスター音源の作成方法を学びます。
第2回	DAW(Protools)について学ぶ。	DAW(Protools)の機能と操作方法を解説しながら、現代の一般的なマルチトラックレコーディングについて学びます。
第3回	課題曲[2]の演奏とレコーディング(1)。	課題曲[2]『Virus』をリハーサルすると共に、キューボックスの使用し演奏する為の適切なモニター方法を学びます。
第4回	課題曲[2]の演奏とレコーディング(2)。	課題曲[2]『Virus』をレコーディングすると共に、譜面の読み方、ミキサーの使用方法、DAWに記録する際の録音レベル等の設定方法などを理解します。
第5回	課題曲[2]の演奏とレコーディング(3)。	課題曲[2]『Virus』をレコーディングすると共に、マルチマイクでの同時録音における各楽器間での音のカブリを理解します。
第6回	課題曲[3]の演奏とレコーディング(1)。	課題曲[3]『Get it on』をリハーサルすると共に、キューボックスの使用し演奏する為の単独送りを利用した個々に適切なモニターバランスのつくり方を学びます。
第7回	課題曲[3]の演奏とレコーディング(2)。	課題曲[3]『Get it on』をレコーディングすると共に、譜面の読み方、演奏に適したDAWでのモニターバランス等の設定方法などを理解します。
第8回	課題曲[3]の演奏とレコーディング(3)。	課題曲[3]『Get it on』をレコーディングすると共に、ライン録音を活用した同時録音における各楽器間での音のセパレート方法を理解します。

学期末試験評価方法

実技試験として、DAWを使用したマルチトラック録音・再生の仕組みが理解出来ているか？を課題とし、試験 50%、平常点、20%、出席 30%で評価します。

プロミュージシャン 学科

学期	科目名	担当講師
秋	プリプロダクション II	手塚雅夫

科目概要

プレゼンテーション用音源やデモ音源の制作方法を学ぶ過程を通し、レコーディングに関する技術的な基礎知識と演奏者としてレコーディングされる際に必要な経験を深めます。

到達目標

DAWを使用しマルチトラックレコーディングのノウハウやマスター音源の作成方法を理解します。
 様々なタイプの楽曲を繰り返しセッションし、レコーディングされた自身の演奏を客観的に聴き、演奏力の向上を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲[4]の演奏とレコーディング(1)。	課題曲[4]『Start me up』をオリジナル音源と譜面を参考に曲の構成と演奏方法を把握し、3ピース編成で演奏できるように実際に音を出しリハーサルします。
第2回	課題曲[4]の演奏とレコーディング(2)。	課題曲[4]『Start me up』をDAWに3ピース編成で演奏し同時録音します。
第3回	課題曲[4]の演奏とレコーディング(3)。	課題曲[4]『Start me up』をDAWに3ピース編成で演奏し部分的な修正や楽器のオーバーダビングなどの録音テクニックを学びます。
第4回	課題曲[5]の演奏とレコーディング(1)。	課題曲[5]『The boy are back in town』をオリジナル音源と譜面を参考に曲の構成と演奏方法を把握し、3ピース編成で演奏できるように実際に音を出しリハーサルします。
第5回	課題曲[5]の演奏とレコーディング(2)。	課題曲[5]『The boy are back in town』をDAWに3ピース編成で演奏し同時録音します。
第6回	課題曲[5]の演奏とレコーディング(3)。	課題曲[5]『The boy are back in town』をDAWに3ピース編成で演奏し部分的な修正や楽器のオーバーダビングなどの録音テクニックを学びます。
第7回	課題曲[5]のミックス。	録音された課題曲[5]『The boy are back in town』のマルチトラック音源を使用しミックスの方法を学びます。

クォーター末試験評価方法

授業での実践においてDAWを使用したマルチトラックレコーディングのテクニックとミックスの概要についての理解度を評価します。
 試験 50%、平常点、20%、出席 30%で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲[6]の演奏とレコーディング(1)。	課題曲[6]『Basket Case』をオリジナル音源と譜面を参考に曲の構成と演奏方法を把握し、3ピース編成で演奏できるように実際に音を出しリハーサルします。
第2回	課題曲[6]の演奏とレコーディング(2)。	課題曲[6]『Basket Case』をDAWに3ピース編成で演奏し同時録音します。
第3回	課題曲[6]の演奏とレコーディング(3)。	課題曲[6]『Basket Case』をDAWに3ピース編成で演奏し部分的な修正や楽器のオーバーダビングなどの録音テクニックを学びます。
第4回	課題曲[6]のミックスとマスター音源の作成。	録音された課題曲[6]『Basket Case』のマルチトラック音源を使用しミックスの方法とマスター音源の作成方法を学びます。
第5回	課題曲[7]の演奏とレコーディング(1)。	課題曲[7]『A hard day's night』をオリジナル音源と譜面を参考に曲の構成と演奏方法を把握し、3ピース編成で演奏できるように実際に音を出しリハーサルします。
第6回	課題曲[7]の演奏とレコーディング(2)。	課題曲[7]『A hard day's night』をDAWに3ピース編成で演奏し同時録音します。
第7回	課題曲[7]の演奏とレコーディング(3)。	課題曲[7]『A hard day's night』をDAWに3ピース編成で演奏し部分的な修正や楽器のオーバーダビングなどの録音テクニックを学びます。
第8回	課題曲[7]のミックスとマスター音源の作成。	録音された課題曲[7]『A hard day's night』のマルチトラック音源をミックスしマスター音源の作成及び音源をデータ化し提出します。

学期末試験評価方法

DAWを使用しマルチトラックレコーディングした楽曲をミックスしマスター音源を作成する一連の流れの理解度を評価します。
 試験 50%、平常点、20%、出席 30%で評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	プリプロダクション I	坂本 洋

科目概要

SSWコースでは、自分達が作曲したオリジナルを、本番のレコーディングに近い形でレコーディング体験をします。商品になる手前の楽曲を、アレンジも含めて担当講師がプロデュース、エンジニアリングしてゆきます。

到達目標

弾語り形態から、フルオーケストラアレンジまで楽しむことが出来るでしょう。3人(A,B,C)でークラスを形成します。

★この授業に必要な物:オリジナル曲、コード譜、歌詞カード、参考CD

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プリプロとは?	授業内容とタイムスケジュール、順番決め
第2回	A曲アレンジ期間	楽曲打合せ、歌詞、コードなどのチェック
第3回	Midi Data制作	オケ制作が始まります
第4回	Audio Rec楽器ダビング	Midi DataをAudioにRec。Gt等の生楽器Rec
第5回	Vo Rec & Mix Down	Vo RecとMix Down CD-R制作
第6回	B曲アレンジ開始	楽曲打合せ、歌詞、コードなどのチェック
第7回	中間試験	弾語り、オケ等でブースにはいってライブ録音

クォーター末試験評価方法

出席点50%ペーパーテスト50%:コード譜作りを通じて、この地球に唯一の共通言語、譜面を書ける様にしましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Midi Data制作	オケ制作が始まります
第2回	Audio Rec楽器ダビング	Midi DataをAudioにRec。Gt等の生楽器Rec
第3回	Vo Rec & Mix Down	Vo RecとMix Down CD-R制作
第4回	C曲アレンジ開始	楽曲打合せ、歌詞、コードなどのチェック
第5回	Midi Data制作	オケ制作が始まります
第6回	Audio Rec楽器ダビング	Midi DataをAudioにRec。Gt等の生楽器Rec
第7回	Vo Rec & Mix Down	Vo RecとMix Down CD-R制作
第8回	期末試験	A,B,C曲をブース内で歌唱、録音

学期末試験評価方法

出席点50%ペーパーテスト50%:コード譜作りを通じて、この地球に唯一の共通言語、譜面を書ける様にしましょう。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	プリプロダクションⅡ	坂本 洋

科目概要

SSWコースでは、自分達が作曲したオリジナルを、本番のレコーディングに近い形でレコーディング体験をします。商品になる手前の楽曲を、アレンジも含めて担当講師がプロデュース、エンジニアリングしてゆきます。

到達目標

弾語り形態から、フルオーケストラアレンジまで楽しむことが出来るでしょう。3人(A,B,C)でークラスを形成します。

★この授業に必要な物:オリジナル曲、コード譜、歌詞カード、参考CD

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プリプロとは?	授業内容とタイムスケジュール、順番決め
第2回	A曲アレンジ期間	楽曲打合せ、歌詞、コードなどのチェック
第3回	Midi Data制作	オケ制作が始まります
第4回	Audio Rec楽器ダビング	Midi DataをAudioにRec。Gt等の生楽器Rec
第5回	Vo Rec & Mix Down	Vo RecとMix Down CD-R制作
第6回	B曲アレンジ開始	楽曲打合せ、歌詞、コードなどのチェック
第7回	中間試験	弾語り、オケ等でブースにはいってライブ録音

クォーター末試験評価方法

出席点50%ペーパーテスト50%:コード譜作りを通じて、この地球に唯一の共通言語、譜面を書ける様にしましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Midi Data制作	オケ制作が始まります
第2回	Audio Rec楽器ダビング	Midi DataをAudioにRec。Gt等の生楽器Rec
第3回	Vo Rec & Mix Down	Vo RecとMix Down CD-R制作
第4回	C曲アレンジ開始	楽曲打合せ、歌詞、コードなどのチェック
第5回	Midi Data制作	オケ制作が始まります
第6回	Audio Rec楽器ダビング	Midi DataをAudioにRec。Gt等の生楽器Rec
第7回	Vo Rec & Mix Down	Vo RecとMix Down CD-R制作
第8回	期末試験	A,B,C曲をブース内で歌唱、録音

学期末試験評価方法

出席点50%ペーパーテスト50%:コード譜作りを通じて、この地球に唯一の共通言語、譜面を書ける様にしましょう。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	プリプロダクションⅠ	三浦年一

科目概要

CD制作において本番に近い形で行うテストレコーディングをプリプロダクションといいます。授業ではレベルの高い音源制作を目的とし、講師がプロデューサーまたはディレクター、学生がアーティストという立場で作業を進めます。内容は楽曲の選考、オリジナル曲の制作、ヴォーカルや楽器のレコーディングなどです。

到達目標

レコーディングに使われる機材の名称や使用方法の習得。レコーディングでの専門的用語の理解。
アーティストとして目標とするキャラクター、方向性、スタイルなどの確立。歌唱や楽器演奏におけるベーシック部分でのレベルアップ。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音源制作についての概要	音源制作の順序、方法などの説明とレコーディングで使われる用語や機材の名称、使用方法について学習します。
第2回	アーティストキャラクターの考察	アーティストとしての方向性、スタイルなどを学生と講師で確認し、どのようなアーティストを目指すか目標を決めます。
第3回	楽曲選考 楽曲-A	レコーディングする楽曲を選びます。アーティストキャラクターに合うものであればカバー曲でもオリジナル曲でもよいです。
第4回	レコーディング 楽曲-A-1	ヘッドフォンでのレコーディングに慣れるため、キューボックスでの伴奏カラオケとのバランスの取り方などを学習します。
第5回	レコーディング 楽曲-A-2	音程、リズム、抑揚など楽曲の特徴を把握しながらヴォーカルのレコーディングを進めていきます。
第6回	レコーディング 楽曲-A-3	楽曲-Aの仕上げとして、前回のレコーディングでの足りない点や問題点を修正しながら、よりレベルアップしたものを目指します。
第7回	第1クォーター末試験	楽曲-Aのレコーディング状態での歌唱実技です。楽曲の把握度、レコーディングマナー、歌唱スキルなどをみます。

クォーター末試験評価方法

試験点50%…楽曲の把握度とキューボックスの使い方やヘッドフォン慣れなどレコーディングマナーの評価プラス ヴォーカル、楽器演奏などのテクニック、表現力、安定感などの評価を合わせて採点します。

出席点40% 平常点10%…授業態度、積極性など

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲選考 楽曲-B	2曲目にレコーディングする楽曲-Bを選びます。アーティストとして幅を広げるために楽曲-Aとはテンポなど異なったタイプにします。
第2回	レコーディング 楽曲-B-1	楽曲-Aの時と同様に音程、リズム、抑揚など楽曲の特徴を把握しながらヴォーカルのレコーディングを進めていきます。
第3回	レコーディング 楽曲-B-2	楽曲-Bの仕上げとして、前回のレコーディングでの足りない点や問題点を修正しながら、よりレベルアップしたものを目指します。
第4回	楽曲選考 楽曲-C	3曲目にレコーディングする楽曲-Cを選びます。楽曲-A、Bとはテンポ雰囲気など異なったタイプにします。
第5回	レコーディング 楽曲-C-1	楽曲-A、Bの時と同様に音程、リズム、抑揚など楽曲の特徴を把握しながらヴォーカルのレコーディングを進めていきます。
第6回	レコーディング 楽曲-C-2	楽曲-Cの仕上げとして、前回のレコーディングでの足りない点や問題点を修正しながら、よりレベルアップしたものを目指します。
第7回	CD制作 楽曲-A、B & C	春学期のまとめとして3曲入りのCDにします。パケットトラックとヴォーカルなどのバランスをとり音を整えるトラックダウン作業をします。
第8回	第2クォーター末試験	楽曲-BorCのレコーディング状態での歌唱実技です。楽曲の把握度、レコーディングマナー、歌唱スキルなどをみます。

学期末試験評価方法

試験点50%…楽曲の把握度とキューボックスの使い方やヘッドフォン慣れなどレコーディングマナーの評価プラス ヴォーカル、楽器演奏などのテクニック、表現力、安定感などの評価を合わせて採点します。

出席点40% 平常点10%…授業態度、積極性など

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	プリプロダクションⅡ	三浦年一

科目概要

CD制作において本番に近い形で行うテストレコーディングをプリプロダクションといいます。授業ではレベルの高い音源制作を目的とし、講師がプロデューサーまたはディレクター、学生がアーティストという立場で作業を進めます。内容はオリジナル曲の制作、ヴォーカルや楽器のレコーディングなどです。

到達目標

秋学期ではオリジナル楽曲を2曲作ります。アーティストキャラクターに沿った形でのクオリティーの高い作品が目標です。ヴォーカルや楽器演奏においてもテクニックや表現力などのスキルが春学期よりもレベルアップしたものを目指します。オリジナル曲初心者には講師がサポートします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲コンセプトミーティング 楽曲-D	オリジナル楽曲-Dを作っていくための打ち合わせ。アーティストキャラクターに沿って歌詞、楽曲、アレンジなどの方向性を決めます。
第2回	楽曲制作 楽曲-D-1	楽曲コンセプトミーティングの内容に沿って具体的に歌詞、楽曲を制作し、コンセプトに照らし合わせチェックします。
第3回	楽曲制作 楽曲-D-2	前回は引き続き楽曲-Dの制作をします。より良いものを作るため問題点がある場合は修正をしていきます。
第4回	楽曲制作 楽曲-D-3	歌以外の伴奏となるバックトラックを作っていきます。アレンジの確認作業と曲によっては音楽データのプログラミングをします。
第5回	レコーディング 楽曲-D-1	ガイドとしての仮ヴォーカルとバックトラックに必要なギター、ピアノなどの生楽器をレコーディングします。
第6回	レコーディング 楽曲-D-2	メインのヴォーカルのレコーディングをします。良いものを録るため何度か歌います。必要であればコーラスもレコーディングをします。
第7回	第3クォーター末試験	楽曲-Dの作品提出。簡単なトラックダウン(各楽器とヴォーカルなどのバランスをとり音を整えること)をして完成形を提出します。

クォーター末試験評価方法

試験点50%...楽曲としてのクオリティー、オリジナリティーなど仕上がりの評価とヴォーカル、楽器演奏などのテクニック、表現力、安定感などの評価を合わせて採点します。
出席点40% 平常点10%...授業態度、積極性など

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲コンセプトミーティング 楽曲-E	オリジナル楽曲-Eを作っていくための打ち合わせ。できるだけ楽曲-Dとは異なったタイプの曲にします。
第2回	楽曲制作 楽曲-E-1	楽曲コンセプトミーティングの内容に沿って具体的に歌詞、楽曲を制作し、コンセプトに照らし合わせチェックします。
第3回	楽曲制作 楽曲-E-2	前回は引き続き楽曲-Eの制作をします。より良いものを作るため問題点がある場合は修正をしていきます。
第4回	楽曲制作 楽曲-E-3	歌以外の伴奏となるバックトラックを作っていきます。アレンジの確認作業と曲によっては音楽データのプログラミングをします。
第5回	レコーディング 楽曲-E-1	ガイドとしての仮ヴォーカルとバックトラックに必要なギター、ピアノなどの生楽器をレコーディングします。
第6回	レコーディング 楽曲-E-2	メインのヴォーカルのレコーディングをします。良いものを録るため何度か歌います。必要であればコーラスもレコーディングをします。
第7回	トラックダウン 楽曲-D & E	楽曲-Dと楽曲-Eのトラックダウンをします。楽曲コンセプトに沿った音になるようにバランスをとり、調整します。
第8回	第4クォーター末試験	楽曲Dと楽曲Eの2作品入りCDとして提出。2曲の音圧、音質を揃える簡単なマスタリング作業をして提出します。

学期末試験評価方法

試験点50%...楽曲としてのクオリティー、オリジナリティーなど仕上がりの評価とヴォーカル、楽器演奏などのテクニック、表現力、安定感などの評価を合わせて採点します。
出席点40% 平常点10%...授業態度、積極性など

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	プリプロダクション I (B.Vocal)	山本英武

科目概要

音源制作において、本番に限りなく近い形で行うテストレコーディングをプリプロダクションと言います。講師がプロデューサー又はディレクター、学生がアーティストという立場で作業を進めます。春学期では主にカバー曲のレコーディングを行っていきます

到達目標

まずはレコーディングに慣れる事、そしてレコーディングにおいて必要な事や注意しなければならない点などについて理解します。そして録音した自分の歌を聞いて自分の長所や短所や問題点などを客観的に理解して改善方法を探していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プリプロダクションとは	プリプロダクションとは何か？必要性などの理解をした上で、この授業の1年間の流れについて説明します。
第2回	まずは歌ってみましょう	まずは歌える曲で歌って聞いてみます。その上で今現在の自分の歌をどう感じるかをディスカッションしていきます。
第3回	マイクとの距離や角度	レコーディング用のコンデンサーマイクに対しての適切な距離や角度、注意点などを学びます。
第4回	適切な音量とは	ヘッドホンボリュームは大きすぎても小さすぎてもいけません。適切な音量を学びます。
第5回	もう一度同じ曲を録ってみる	一度目に比べてどれくらい改善できたかを客観的に確認します。その上でさらに向上できるようにディスカッションします。
第6回	言葉の発音	どのようにすれば歌詞がはっきり聞こえるようになるか。子音や母音について考えます。
第7回	テスト(ボーカル録音)	一番最初と比べどれくらい向上できたか。3テイクの中で出来るだけ良い歌が録音出来るように歌ってみます。

クォーター末試験評価方法

平常点50%(自分の足りない点について認識し努力しているか)試験点20%(限られた時間の中でどのように対応できるか)出席点30%。レコーディングに適した歌い方やヘッドホンのバランスや使い方やマイクとの距離などができているか、などをチェックします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自分の苦手克服の為に	どのような点が自分の苦手なところか理解し、それを改善するための適切な曲を選んでいきます。
第2回	リズムの取り方	楽曲に対しての適切なリズムの取り方を学んでいきます。また体を使ってのリズムの感じ方も理解します。
第3回	ブレス	歌うことの上でブレス(息継ぎ)の重要性を理解します。その上で意識して歌って検証します。
第4回	自分の音域	自分の声の音域の上下、地声と裏声(ファルセット)の境界を知り、また自分の声の良さが活きるポイントなどを知ります。
第5回	歌詞に沿った表現	同じ歌詞でも歌い方によって意味や表情が随分違って聞こえます。曲に合った適切な表現は何かを考えます。
第6回	1フレーズの歌い方	1フレーズをどこまで繋げてどこまで切るのかなどの表現方法について細かく丁寧に考えていきます。
第7回	曲の流れに沿った歌を歌う	前回までの流れを考えた上で、1曲全体のダイナミクスをどのように表現していくか考えていきます。
第8回	テスト(ボーカル録音)	録音した歌を聞き返しながら、3テイクの中で出来るだけ良い歌が録音出来るように歌ってみます。

学期末試験評価方法

平常点50%(自分の足りない点について認識し努力しているか)試験点20%(限られた時間の中でどのように対応できるか)出席点30%。歌詞に合った表現ができているか、一曲の中でダイナミクスが的確に付けられるようになっているかなどをチェックします。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	プリプロダクションⅡ (B.Vocal)	山本英武

科目概要

秋学期3Qではオリジナル曲の制作に必要な音楽知識やコツ、流れなどを理解し体験していきます。また4Qでは歌や曲が講師のディレクションによってどのように変わっていくかをディスカッションしながら体験していきます。

到達目標

オリジナル楽曲を作っていく上で必要な、コードやコード進行など一定の音楽知識を理解し、その上でメロディーを作るコツなどを身につけます。また、楽曲や歌などをディレクションされていく中でのコミュニケーションがしっかり取れるようにします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	曲作りに必要なコードの基礎知識	曲を作るために必要な事柄や音楽知識や、「コード」の仕組みなどについて理解します。
第2回	ダイアトニックコードとは	ダイアトニックコードとは何か、またそれ以外のコードの使い方などについて学びます。
第3回	コードの役割とコード進行	コードの役割や様々なコード進行、またよく使うコード進行などの曲の解説をしながら説明します。
第4回	コードに対してのメロディの考え方	コードに対してメロディをどうつけていくか？また注意しなければいけないことなどについて理解します。
第5回	メロディ作りのコツと例	メロディ作りのコツやAメロBメロサビ、またDメロなどのパートに対しての考え方について学びます。
第6回	曲を作ってみる	実際に曲を作ってみます。またその改善点などについてディスカッションしていきます。
第7回	オリジナル曲を録音する	出来上がった曲をシンプルな伴奏で歌を録音していきます。客観的に聞いてみます。

クォーター末試験評価方法

平常点50%試験点20%出席点30%。コードやコード進行など曲作りに必要な音楽知識を理解した上で曲を1コーラス作れるようになっているか、また前向きに取り組んだかどうかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリジナル曲のブラッシュアップ	より良い曲にするためにどうしたらよいか？講師の指導のもとにディスカッションし、改善していきます。
第2回	歌詞のテーマを考える	曲に合致した歌詞はどのようなものか、また歌詞のメロディへの乗せ方やほめ方(詩のり)について考えます。
第3回	サウンドの方向性	どのようなサウンドにしたいか？またどのような楽器構成やサウンドが持っているかなど検討しながら決めていきます。
第4回	楽曲のアレンジ	実際に楽曲を編曲(アレンジ)していきます。音源制作の流れや実際の作業を体験して理解していきます。
第5回	ボーカル録音(仮)	出来上がったオケで歌ってみた上で、改善点などを確認します。またキーやテンポなどは適正かなどを検討、確認します。
第6回	ボーカル録音	すべて決定した上でボーカルを録音します。また必要に応じてコーラスなども録音していきます。
第7回	ボーカルのエディット	よいテイクを選び、繋げた後、音程やリズムなどの修正を施し、聴きやすい歌にしていきます。
第8回	ミックスダウン(音源完成)	全体のバランスを取り、リバーブやEQなどで音質を調整しまとめて完成しWAVデータに書き出します。

学期末試験評価方法

平常点50%試験点20%出席点30%。メロディや歌詞を完成させ、プリプロダクションという作業を通し音源制作の流れを知り体験していく事が大切です。決められた時間の中でしっかりと打ちにしていけるかをチェックします。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	音響研究 I	熊谷 昭紀

科目概要

プレイヤーや作曲、アレンジなど、楽曲に携わる人のための音響知識を深めていきます。ミキシングエンジニアほど専門的な内容ではありませんので、なるべく簡単で具体的な授業にしていきたいと思いますから、皆さんも難しく考えないで下さい。

到達目標

音響機器の基本的な取り扱いを習得します。無理な使い方をして機材を壊さないためにも、しっかり学んでください。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音響機器の取り扱いを覚える	マイク、アンプ、スピーカーの役割と取り扱い 信号レベル
第2回	マイクスタンドとケーブルの取り扱い	ブームスタンドの取り扱い、8の字巻きを覚える
第3回	音の発生 ~ 伝わり方	音はどうして聞こえるのか？メカニズムを知る
第4回	ダイナミックマイクの仕組み	ダイナミックマイクの構造を知る。 エレキギターのピックアップの構造も学ぶ。
第5回	電流について	直流と交流、電圧、音声信号を理解する 音声信号は交流 Hot、Cold、Earth、音の高さと周波数を理解する
第6回	位相	正相と逆相、バランス接続、アンバランス接続、コネクタの名前を覚える。エンジニアがキャノンでつなぎたがる理由とは？
第7回	試験	筆記試験

クォーター末試験評価方法

筆記試験の点数から、遅刻、欠席1回につき5点減点して評価を算出します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミキシングコンソール(1)	ミキサーの概要を知る。マイクを繋いで音を出す。ヘッドアンプとチャンネルフェーダーという名前と、役割を理解する。
第2回	ミキシングコンソール(2)	LINE機器の接続、CDプレイヤーやその他LINE機器の接続～音出しモノラルとステレオとは何かを理解する。PANIについて。
第3回	ミキシングコンソール(3)	音の高さと周波数の関係を理解する。EQの使い方をEQの原理と効果を学ぶ。グライコとパライコ、EGの使い方
第4回	エフェクターの接続(1)	チャンネル・インサートを理解する コンプレッサーの接続～調整方法を学ぶ
第5回	エフェクターの接続(2)	AUXの理解 リバーブの接続～エフェクト処理までの手順を習得する
第6回	エフェクターの種類と効果、ミキサーへの接続の使い分け	リバーブ、ディレイ、コンプレッサー、ノイズゲート、ピッチシフトなど
第7回	試験	音響研究 I は全15回で完結するため、最終日である15回目(2クォーター8回目)に答案返却と解説を行います。
第8回	まとめ	答案返却と解説

学期末試験評価方法

1クォーター、2クォーターの試験点を加算して、遅刻、欠席1回につき5点減点してから2で割った数字を評点として採用します。
答案と答え合わせは3クォーターの開始時に行います。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	音響研究Ⅱ	熊谷 昭紀

科目概要

現在、世界中のレコーディングスタジオで主流であるProTools(パソコンを使ったレコーディングソフト)について学びます。多くのミュージシャンが自宅で作曲やデモテープ作成に使っているだけでなく、そのままCDとして販売している作品もありますので、これからの音楽制作では欠かすことができないスタンダードなソフトと言えます。

到達目標

録音から編集、ミキシングなどで使うオペレーションスキルを身に付けることが目標です。2クォーターで学んだミキサーの取り扱いに関する知識があれば、全然、難しいことはありません。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パソコンの操作方法	WindowsとMacの共通点と相違点
第2回	Protoolsの基本操作	起動、ファイルの品質と作成、保存、終了 CDの音質、ハイレゾの品質
第3回	録音と再生	Mix画面と編集画面 新規トラックの作成、録音、再生
第4回	オーバーダビング	録音トラック、再生トラックの設定、再生トラックをモニターしながら録音する→マルチトラックレコーディング
第5回	Mix画面を学ぶ	ミキシングをすること エフェクターをかける(インサートとバスセンド)
第6回	試験(前半)	実技試験
第7回	試験(後半)	実技試験

クォーター末試験評価方法

実技試験に関しては、1人当たり10分として、入れ替わりの時間を含めると1コマあたり5～6人しか対応できませんので、2週に分けて実施します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プラグイン	プラグインエフェクターの種類とインサート、バスの使い分け
第2回	サウンドメイク	EQやエフェクターを使って、積極的な音づくりを、学ぶ
第3回	編集画面	各ツールの名前と効果を覚える
第4回	楽曲の編集	編集ポイントを見つけて楽曲のショートヴァージョンを作る
第5回	作品制作	各自、音源を用意し課題を製作する
第6回	作品制作	各自、音源を用意し課題を製作する
第7回	作品制作	各自、音源を用意し課題を製作する
第8回	作品制作	各自、音源を用意し課題を製作する

学期末試験評価方法

課題の評価点数から、遅刻、欠席1回につき5点減点して評価を算出します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	リペア&クラフト I	轟 光太郎

科目概要

一年を通じて、実際にエレキギターを一本クラフト(製作)、
その中でリペア(修理)なども学び、楽器への造詣を深める。

到達目標

- ・期間内でのエレキギターの完成
- ・エレキギターの知識取得
- ・楽器業界への興味、進路意識の確認

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ギターという楽器	誕生から現在までのエレキギター、エレキベース、アコースティックギターの歴史、種類、変化について。
第2回	アンプ、エフェクターについて	アンプの使い方、エフェクターの使い方、歴史、種類、変化について。
第3回	エレキギターの診断方法	エレキギターが弾き易い状態に保たれているか？ 状態確認の方法について。
第4回	エレキギターの基本セッティング①	エレキギターを弾き易い状態に導けるよう、基本となるセッティングについて。
第5回	エレキギターの基本セッティング②	ネックまわりの調整の仕方、反り修正 etc..
第6回	ハンダの使い方	ハンダの使い方～ピックアップの仕組みを学び、実際に交換してみる。
第7回	ペーパーテスト(試験)	1クォーターで学んだ楽器の知識、調整方法のペーパーテスト

クォーター末試験評価方法

ペーパーテスト、出席率、取り組み態度。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1クォーター試験復習	1クォーター試験の復習をし、リペアの方法などを再確認する。
第2回	エレキギター製作～木地調整～	着色前に木材の木地を安定させる作業。
第3回	エレキギター製作～着色～	塗料を調合し、ステイン塗装。
第4回	エレキギター製作～着色～	塗料を調合し、ステイン塗装。
第5回	エレキギター製作～オイルフィニッシュ～	ステイン塗装後の、表面仕上げ工程。
第6回	エレキギター製作～オイルフィニッシュ～	ステイン塗装後の、表面仕上げ工程。
第7回	エレキギター製作～ノイズ処理～	ノイズの原因となる滞留電気を逃がすため、導電塗料を添付する。
第8回	成果物提出(試験)	製作途中のエレキギターの作業達成度をチェックします。

学期末試験評価方法

製作途中のエレキギターの達成度と出席率、取り組み態度。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	リペア&クラフトⅡ	轟 光太郎

科目概要

一年を通じて、実際にエレキギターを一本クラフト(製作)、
その中でリペア(修理)なども学び、楽器への造詣を深める。

到達目標

- ・期間内でのエレキギターの完成
- ・エレキギターの知識取得
- ・楽器業界への興味、進路意識の確認

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エレキギター製作～電気系統結線～	エレキギター心臓部の電気系統をハンダを使用し結線する。
第2回	エレキギター製作～ボディ完成～	電気系統パーツ、その他パーツをボディに組み込み、ボディ部分完成を目指す。
第3回	エレキギター製作～フレット擦り合わせ～	フレットを擦り合わせる。
第4回	エレキギター製作～フレット擦り合わせ～	フレットを擦り合わせる。
第5回	エレキギター製作～フレット成形～	フレットファイルナイフを使ってフレットの形を整える。
第6回	エレキギター製作～フレット成形～	フレットファイルナイフを使ってフレットの形を整える。
第7回	成果物提出(試験)	製作途中のエレキギターの作業達成度をチェック。

クォーター末試験評価方法

製作途中のエレキギターの達成度と出席率、取り組み態度。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エレキギター製作～フレット仕上げ～	フレットを#400～#2000までのサンドペーパーで丁寧に研磨し、スチールウールで仕上げるまでの工程。
第2回	エレキギター製作～フレット仕上げ～	フレットを#400～#2000までのサンドペーパーで丁寧に研磨し、スチールウールで仕上げるまでの工程。
第3回	エレキギター製作～フレット仕上げ～	フレットを#400～#2000までのサンドペーパーで丁寧に研磨し、スチールウールで仕上げるまでの工程。
第4回	エレキギター製作～ネック部パーツ取付～	ネックに付随する、チューニングペグなどのパーツを取り付ける。
第5回	エレキギター製作～ボディ組込～	既に完成しているボディとネックを丁寧に組み込む。
第6回	エレキギター製作～仕上げ～	演奏出来るよう、入念なトータルセットアップ。
第7回	エレキギター製作～仕上げ～	演奏出来るよう、入念なトータルセットアップ。
第8回	成果物提出(試験)	弾き易さ、仕上がりなど、 製作したエレキギターの出来をチェック。

学期末試験評価方法

成果物(エレキギター)提出確認、達成度と出席率、取り組み態度。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォイストレーニング I	嶋村 祐子

科目概要

ヴォーカリストは「身体が楽器」です。自分本来の声を響かせ安定した音程と音域の広がりを得るため、基礎的な身体の使い方をトレーニングします。

到達目標

自分本来の声を見つけ、歌の表現力につなげていく。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介。授業の説明
第2回	歌での自己紹介	各自カバー曲、またはオリジナル曲を歌う
第3回	発声のしくみ	効率の良い、歌う時の姿勢と呼吸
第4回	呼吸法を響かせるポイント①	体軸作りのストレッチ。発声。モチーフ曲
第5回	呼吸法を響かせるポイント②	〃
第6回	呼吸法を響かせるポイント③	〃
第7回	授業内ライブ	ライブ形式で1人ずつ歌う。録画してチェック。

クォーター末試験評価方法

ヴォイストレーニングの必要性を理解し、意欲的に授業に取り組んでいるかを評価します。上達には出席が不可欠。健康管理にも注意してください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	響鳴法 1	歌う時に必要な力。いらぬ力
第2回	響鳴法 2	下顎はリラックス。口蓋は引き上げる。
第3回	響鳴法 3	のどはリラックス。表情筋は動かす。
第4回	母音 1	すべての母音(a, i, u, e, oの5母音)を同じように響かせる
第5回	母音 2	すべての母音(a, i, u, e, oの5母音)を同じように響かせる
第6回	子音 1	子音に必要な筋肉のトレーニング
第7回	子音 2	滑舌のためのトレーニング
第8回	実技試験	ライブ形式で1人ずつ歌う。録画。

学期末試験評価方法

自分が楽器であるという自覚を持ち、姿勢や呼吸法、響き、音程を意識しつつ表現力につなげているかを評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォイストレーニングⅡ	嶋村 祐子

科目概要

引き続き、楽器としての「VOICE」を磨いていきつつ、歌の表現力を高めるために必要なヴォーカルテクニックを学んでいきます。

到達目標

声そのものの魅力と、手に入れたテクニックを歌の表現につなげていく。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音域を広げる 1	高音域
第2回	音域を広げる 2	低音域
第3回	ヴォーカルテクニック 1	ファルセットヴォイス。ミックスヴォイス。
第4回	ヴォーカルテクニック 2	地声を滑らかにつなげる。
第5回	ヴォーカルテクニック 3	歌の中での応用。
第6回	ヴォーカルテクニック 4	歌の中での応用。
第7回	授業内ライブ	ライブ形式で1人ずつ歌う。録画。

クォーター末試験評価方法

今までトレーニングしてきたことの定着と、歌への反映、応用。
発声法やテクニックは地道な反復練習によってのみ身体に定着します。授業での理解を自主トレーニングにつなげているかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	表現力を磨く 1	ヴィブラート、ノンヴィブラートのコントロール。
第2回	表現力を磨く 2	グリスアップ、グリスダウン。
第3回	Groove 1	16 Beat. うらの感覚。
第4回	Groove 2	身体で理解するためのトレーニング。
第5回	Groove 3	発声への生かし方。
第6回	総合的なトレーニング 1	テクニックを表現力へつなげる。
第7回	総合的なトレーニング 2	テクニックを表現力へつなげる。
第8回	実技試験	ライブ形式で1人ずつ歌う。録画。

学期末試験評価方法

歌い手だけが歌詩のある楽器。「歌詩」をしっかりとどけるためには、楽器として安定したクオリティの土台が不可欠です。1年間の総まとめとして「上手い」だけではなく、「ぐっとくる」「心に刺さる」歌を聴きたいと思います。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	作詞作曲P I	芦澤和則

科目概要

作詞Pの”P”とは何か？それは音楽、芸能界におけるプロデュースの略称です。つまりこの授業では、まず「作りたいものを作る」からスタートし、最終的には作詞家としてのプロデュース能力を身に付け「求められるものを作れるようになる」を目指します。

到達目標

常に時代や世相をしっかりと見据え、総合的にその作品の価値を見極めながら作れるようになることを目指します。作詞の基本的なテクニックを学び、レベルアップと共に客観的な目線で分析し個性的で独創的な作品を作る作詞家、アーティストを養成する事が目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	Poem(詩)とLyric(詞)の違いとは何でしょうか？リズムやメロディに乗せて作ると「作詞」についての説明をします。
第2回	基本テクニック #1「サビ」	まず始めに歌詞の結論部となる「サビ」と呼ばれるパートを作ってみましょう。シンプルかつストレートなフレーズで。
第3回	基本テクニック #2「平歌」	「平歌(ヒラウタ)」と呼ばれる「サビ」以外のパートを作ってみましょう。人物、舞台、情景描写の作り方のコツを教えます。
第4回	基本テクニック #3「比喩」	作品をより生き生きと輝かせる表現の一つでもある比喩について考えてみましょう。その種類、手法を解説します。
第5回	基本テクニック #4「倒置法、体言止め」	より効果的でインパクトのある表現として良く使われる「倒置法」、「体言止め」について解説します。
第6回	基本テクニック #5「擬音」	表現に臨場感を与えるのにとっても効果的なテクニックである「擬声語」、「擬態語」を研究してみましょう。
第7回	テスト(作品提出)	1クォーターで学んだ事を踏まえて作った歌詞(作品)を提出。テーマは時流に合わせて当日発表します。

クォーター末試験評価方法

中間期となる1クォーター末の試験は、今期で学んだ内容を踏まえ時流を鑑み、捉えた上での指定テーマによる作品を提出する事とします。評価基準は出席率50%、平常点(積極性、理解力、想像力、独創性)30%、作品20%を目安とし総合的に判断、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品添削～分析	前回提出の作品を添削したものを返却します。不明な点に対する質疑応答をします。自分の作品を分析しましょう。
第2回	基本テクニック #6「プロ作品分析I」	基本テクニック#1～5で学んだ事をプロは実際にはどのように使っているのか分析します。(アーティスト編)
第3回	基本テクニック #7「プロ作品分析II」	基本テクニック#1～5で学んだ事をプロは実際にはどのように使っているのか分析します。(職業作家編)
第4回	基本テクニック #8「言葉の響き」	メロディとセットで一つの作品となる「詞」にとって必要不可欠と言える言葉の響きや韻について解説します。
第5回	基本テクニック #9「言葉のリズム」	言葉の持つイントネーションやリズムと実際のメロディとの相性やバランスを意識した作り方を解説します。
第6回	基本テクニック #10「五感」	本来は聴覚だけの物であった「音楽」に視覚、嗅覚、味覚、触覚をも感じさせるような表現方法を解説します。
第7回	基本テクニック #11「独創的表現」	逆説的であったり、特殊であったり、他人とは違う自分なりの独創的な言葉や表現方法を探すコツを教えます。
第8回	テスト(作品提出)	2クォーターで学んだ事を踏まえて作った歌詞(作品)を提出。テーマは時流に合わせて当日発表します。

学期末試験評価方法

学期末となる2クォーター末の試験は、今期学んだ内容を踏まえ時流を鑑み、捉えた上での指定テーマによる作品を提出する事とします。評価基準は出席率50%、平常点(積極性、協調性、理解力、想像力)30%、作品20%をひとつの目安とし総合的に判断、評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	作詞作曲P II	芦澤和則

科目概要

作詞Pの”P”とは何か？それは音楽、芸能界におけるプロデュースの略称です。つまりこの授業では、まず「作りたいものを作る」からスタートし、最終的には作詞家としてのプロデュース能力を身に付け「求められるものを作れるようになる」を目指します。

到達目標

常に時代や世相をしっかりと見据え、総合的にその作品の価値を見極めながら作れるようになることを目指します。作詞の基本的なテクニックを学び、レベルアップと共に客観的な目線で分析し個性的で独創的な作品を作る作詞家、アーティストを養成する事が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品添削～分析	前回提出の作品を添削したものを返却します。不明な点に対する質疑応答をします。自分の作品を分析しましょう。
第2回	応用テクニック #1「曲先作詞法Ⅰ」	現在音楽業界において楽曲作りの主流である「曲先」での作詞法を教えます。実際にインスト曲に詞をのせてみます。
第3回	応用テクニック #2「曲先作詞法Ⅱ」	現在音楽業界において楽曲作りの主流である「曲先」での作詞法を教えます。今週はクラシック曲に詞をのせてみます。
第4回	応用テクニック #3「アニソン研究」	アニソンを語らずして音楽を語れない程の昨今の音楽業界。原作のイメージワードを盛り込んだ作り方を解説します。
第5回	応用テクニック #4「ドラマOP,ED曲研究」	ドラマ内の人間関係や根底にあるテーマに則った内容をベースにして作るテクニックを教えます。
第6回	応用テクニック #5「ボカロ曲研究」	ボカロ曲の研究をします。マイノリティ的なアプローチでマジョリティな支持を得た作品を分析、解説します。
第7回	テスト(作品提出)	Ⅲクォーターで学んだ事を踏まえて作った歌詞(作品)を提出。テーマは時流に合わせ当日発表します。

クォーター末試験評価方法

中間期となる3クォーター末の試験は、今期で学んだ内容を踏まえ時流を鑑み、捉えた上での指定テーマによる作品を提出する事とします。評価基準は出席率50%、平常点(積極性、理解力、想像力、独創性)30%、作品20%を目安とし総合的に判断、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品添削～分析	前回提出の作品を添削したものを返却します。不明な点に対する質疑応答をします。自分の作品を分析しましょう。
第2回	実践 #1「CM曲」	ある商品名を当日発表しますので、そのCMで使われるようなイメージソングの詞を作ってみましょう。
第3回	実践 #2「楽曲提供Ⅰ」	あるアーティスト名を当日発表しますので、その人にあったイメージソングの詞を作ってみましょう。(女性アーティスト編)
第4回	実践 #3「楽曲提供Ⅱ」	あるアーティスト名を当日発表しますので、その人にあったイメージソングの詞を作ってみましょう。(男性アーティスト編)
第5回	実践 #4「アンサーソング」	ある楽曲名を当日発表しますので、その楽曲へのアンサーソングの詞を作ってみましょう。
第6回	実践 #5「クリスマスソング」	風物詩系楽曲の定番中の定番、クリスマスソングを作ってみましょう。競合が多いので個性的な切り口で。
第7回	実践 #6「桜ソング」	クリスマスソングと並んで風物詩系楽曲の定番、桜ソングを作ってみましょう。より個性的な切り口で。
第8回	テスト(作品提出)	4クォーターで学んだ事を踏まえて作った歌詞(作品)を提出。テーマは時流に合わせ当日発表します。

学期末試験評価方法

学期末となる4クォーター末の試験は、今期で学んだ内容を踏まえ時流を鑑み、捉えた上での指定テーマによる作品を提出する事とします。評価基準は出席率50%、平常点(積極性、理解力、想像力、独創性)30%、作品20%を目安とし総合的に判断、評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	作詞 I (Vo)	轟 光太郎

科目概要

ボーカリストとして、表現力を高めるために作詞の造詣を深める。

到達目標

文章を歌詞に変換し、意思を伝えられるようになる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	言葉をさがす	足元におちている言葉をさがしに出かける
第2回	言葉をひろう	言葉を見つけて、好きなだけ手に入れる
第3回	言葉をもろう	言葉は空からも降ってくる
第4回	言葉をつくる	集めたカケラをつないでみる
第5回	言葉をこねる	つないだカケラに色を塗る
第6回	言葉でゆれる	それを誰かに話してみる
第7回	試験	作品提出

クォーター末試験評価方法

出席率、取り組み姿勢、試験成果

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	言葉をさがす	もう一度、旅に出る
第2回	言葉に出会う	誰かの唄にやられる
第3回	言葉をたべる	いちど自分の体に入れてみる
第4回	言葉をだす	自分のものにして吐きだしてみる
第5回	言葉をながめる	吐いた言葉に自分がいるか、ぼんやり確認
第6回	言葉をくつつける	足りないものを加えてみる
第7回	言葉を落とす	余計なものを振り落とす
第8回	試験	作品提出

学期末試験評価方法

出席率、取り組み姿勢に加え、作品の出来不出来よりも、4月からの成長が大きいほど評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	作詞Ⅱ (Vo)	轟 光太郎

科目概要

作詞を通して、ミュージシャンとしての表現力の可能性を広げる。

到達目標

シンガーソングライターに負けない作詞スキルを身に着ける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	宇宙にいる	自分が属する最大のものを想像してみる
第2回	地球にいる	生まれてきたことを、おさらいしてみる
第3回	ここにいる	今いる場所を、みまわしてみる
第4回	あそこにいる	違う国、違う街にいることを心に描いてみる
第5回	君がいる	愛、らしきものを感じてみる
第6回	君もいる	違う誰かもそこにいる
第7回	試験	作品提出

クォーター末試験評価方法

出席率、取り組み姿勢、試験成果

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	花が咲く	たとえば向日葵畑のこと
第2回	風が吹く	たとえば海沿いの小さな町のこと
第3回	恋をする	つながっていたいと思う気持ちについて
第4回	恋が終わる	あまり悲しくなかったとしたら
第5回	クリスマス	クリスマスイメージさせる
第6回	雪が降る	タイトル、歌詞に雪を使う
第7回	成長したのかな	自分の成長を確認する
第8回	試験	作品提出

学期末試験評価方法

出席率、取り組み姿勢に加え、好奇心を持って取り組んでいるかどうかを評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	楽器トレーニング I (Gt)	YASS

科目概要

シンガーソングライターとしてギターを弾きながら歌う事を前提としたギタープレイ、テクニックについて学びます。基本的な構え、フィンガーリングフォームとピッキングフォームを一から学んでゆき、様々なジャンルやリズムにおけるギター演奏を学習します。

到達目標

楽曲のクオリティーをより高めるためのオブリガートやソロ、アドリブ等も理論に基づいたコード、スケールに関連付けながら学び最終的に各自のオリジナルに活かせるよう学習します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎知識とチューニング	ギター各部の名称と役割、演奏の基本姿勢とチューニングを学びます。チューニングをマスターする。
第2回	基本フォームの確認	基本フォームを練習課題を使い確認、修得します。
第3回	パワーコードとダウンストローク	パワーコードとダウンストロークによるバックイングを学びます。
第4回	コードとストローク1	トライアドのコードフォームをマスターし8ビートのストロークを学びます。
第5回	コードとストローク2	各Keyのトライアドのコードフォームをマスターし8ビートのストロークを学びます。移調を理解しコードフォームをマスターします。
第6回	ストロークとミュート	8ビートのストロークのバリエーションとミュートのテクニックを学びます。
第7回	実技試験	課題曲の演奏をします。各自の修得度をチェックします。

クォーター末試験評価方法

平常点(修得度20%、履修態度20%、小テスト10%)50%、出席点20%、試験点30%として評価します。試験では各学生ごとの演奏能力の伸び具合を評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	シャッフル	シャッフルのリズムを理解し、その演奏スタイルを学びます。
第2回	ブルース	ブルースフィーリング、進行とそのコードを学びます。
第3回	ブルースペンタニック	ブルースコードとブルースペンタニックスケールについて学びます。
第4回	ペンタニックとブルーノート	ペンタニックスケールとブルーノートについて学びます。
第5回	テクニック1	ハンマーリングとプリング、スライドのテクニックを学びます。
第6回	テクニック2	ビブラートとペンディングのテクニックを学びます。
第7回	バックイングとソロ	メジャー、マイナーのペンタニックスケールを用いてのソロを学びます。
第8回	実技試験	課題曲の演奏をします。各自の修得度をチェックします。

学期末試験評価方法

平常点(修得度20%、履修態度20%、小テスト10%)50%、出席点20%、試験点30%として評価します。試験では各学生ごとの演奏能力の伸び具合を評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	楽器トレーニングⅡ (Gt)	YASS

科目概要

シンガーソングライターとしてギターを弾きながら歌う事を前提としたギタープレイ、テクニックについて学びます。春学期に学んだテクニックを基にさらに様々なジャンルやリズムにおけるギター演奏を学習します。

到達目標

楽曲のクオリティーをより高めるためのオブリガートやソロ、アドリブ等も理論に基づいたコード、スケールに関連付けながら学び最終的に各自のオリジナルに活かせるよう学習します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	16ビートと4ノーツコード	16ビートのカッティングと4和音のコードフォームを学びます。
第2回	メジャースケール1	オープンポジションと第2ポジションのC Major Scaleを学びます。各ポジションでのフィンガーリングをマスターします。
第3回	ダイアトニックコード	楽曲中でよく使われるコードの役割について学びます。
第4回	16ビート2	16のカッティングとブラッシングミュートを学びます。
第5回	メジャースケール2	第5、第7ポジションでのC Major Scaleを学びます。また4和音のコードフォームも学びます。
第6回	16ビート3	16ビートの曲でのバックイングとソロを総合的に学びます。また4和音のコードフォームも学びます。
第7回	実技試験	課題曲の演奏をします。各自の修得度をチェックします。

クォーター末試験評価方法

平常点(修得度20%、履修態度20%、小テスト10%)50%、出席点20%、試験点30%として評価します。試験では各学生ごとの演奏能力の伸び具合を評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アルペジオのバックイング1	8ビートを中心とした指を使ったアルペジオ奏法についてを学びます。
第2回	アルペジオのバックイング2	12/8、16ビートを中心とした指を使ったアルペジオ奏法についてを学びます。
第3回	分数コード	様々なコード進行での分数コードとその機能について学びます。
第4回	テンションコード	ナチュラルテンションの加えられたコードのフォームについて学びます。
第5回	Bossa Nova	ボサノバに代表されるような右手の指を使ったバックイングを学びます。フィンガーピッキングをマスターします。
第6回	4ビート	ジャズに代表されるような4ビートの演奏を学びます。
第7回	バックイングとソロ	楽曲の演奏を総合的に考えてギターの可能性を考えます。
第8回	実技試験	課題曲の演奏をします。各自の修得度をチェックします。

学期末試験評価方法

平常点(修得度20%、履修態度20%、小テスト10%)50%、出席点20%、試験点30%として評価します。試験では各学生ごとの演奏能力の伸び具合を評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	楽器トレーニング I (キーボード)	松永加津子

科目概要

毎回、各自それぞれのペースで基本スケール練習し、その後、いろいろなジャンルの曲を楽しく弾いていきます。春学期では、ベースとドラムが入った場合の弾き方を学びます。左手で基本のコードの押さえ、右手でメロディーを弾く基本をしっかりと学習していきます。

到達目標

ロックの名曲の中から、まず、基本の主要3和音を使った曲を弾きます。徐々にステップアップし、ダイアトニックコードを学習しながら、曲中のコードを意識して弾きましょう。リズムは8ビートの曲を中心に、シャッフルの曲までチャレンジします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メジャースケールを弾く①	メジャースケールを弾くことにより、指使いを覚えます。主要3和音も勉強しましょう。
第2回	メジャースケールを弾く②	メジャースケールを、4分音符で、8分音符で、3連音符で弾きます。合格したら次のスケールに進みます。
第3回	主要3和音を使った曲 前半	転回コードの押さえ方を学びます。響きの良い音域を意識して弾きます。
第4回	主要3和音を使った曲 後半	曲を通して楽しんで演奏しましょう。
第5回	7thコードのロックンロール ①	ブルース形式の曲を学びます。7thコードを覚えましょう。
第6回	7thコードのロックンロール ②	ロックンロールの曲を、様々な弾き方でチャレンジします。
第7回	課題曲を弾く	授業で練習した課題曲を弾きます。

クォーター末試験評価方法

毎回の積み重ねがとても大切になりますので、出席を重視します。曲を上手に弾くことももちろん大切ですが、それぞれの上達の具合を加味して、採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	左手のコードの押さえ方 ①	ポップスの少し長い曲にチャレンジします。リードラインをあまり動かさずに弾くコツを覚えましょう。
第2回	左手のコードの押さえ方 ②	前回の曲の後半部分まで弾いていきます。弾ける方は、どこを盛り上げたらいいか、考えることができるといいですね。
第3回	8ビートのリズムで弾く	ビートによって弾きましょう。メロディーを歌いながら弾くのもいいですね。
第4回	シャッフルの曲 ①	8部音符をどのように弾くかを覚えていきます。また、シャッフルの曲の表示や書き方も学びましょう。
第5回	シャッフルの曲 ②	難しい部分は繰り返し練習します。
第6回	アドリブにチャレンジ!	少しずつ、アドリブもしていきます。いきなりすごいことを弾くのではなく、音数少なく、かっこよく。
第7回	試験課題曲の練習	試験前に課題曲をしっかりと練習しましょう。
第8回	シャッフルの曲をテーマとアドリブ	まず、テーマをしっかりと弾くこと。そして、アドリブ部分は、左手のコードを押さえながらも、片手でもオクテー。

学期末試験評価方法

出席を重視、普段の取り組みも重視します。テーマをしっかりと丁寧で弾くこと。また、リズムをしっかりと捉えること。そして、プラスアルファでアドリブチャレンジも楽しんでほしいです。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	楽器トレーニングⅡ（キーボード）	松永加津子

科目概要

まず、基本のスケールをしっかり弾きます。早い方だと、後半でそろそろマイナースケールも弾いていくことになります。また、課題曲は季節にふさわしいクリスマスソングなども演奏していきます。一曲を完成させる楽しみを味わってください。

到達目標

課題曲では、ボサノヴァやサンバ、16バウンスのリズムの曲を弾きます。リズムックフェイクやメロディックフェイクを知り、少し頑張っ、アドリブにもどんどんチャレンジしましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ブルース形式の曲 ①	ロックンロールとジャズのブルースのコードの違いを確認していきます。
第2回	ブルース形式の曲 ②	アドリブにチャレンジ、リズムで形を作ります。
第3回	ブルース形式の曲 ③	様々なキーでブルースを演奏してみましょう。
第4回	ボサノバの曲 ①	ボサノバの曲、左手をしっかり弾く練習をします。
第5回	ボサノバの曲 ②	アドリブにチャレンジ。使うとカッコいい音と、そうでない音をチェック！
第6回	試験課題曲 練習	テーマもアドリブも、繰り返し練習しましょう。
第7回	ボサノバの曲をテーマとアドリブ	まず、テーマをしっかり弾くこと。リズムの乗っているか、響きのまづい音を引かないこと。

クォーター末試験評価方法

楽器の練習は積み重ねが大切です。日々の取り組みを重視しますので、もちろん出席も重視します。どれだけ取り組めたか、楽しみに聴かせていただきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クリスマスソング ①	8ビートのクリスマスソングを楽しく弾きます。
第2回	クリスマスソング ②	オーソドックスなスタンダードクリスマスソングをゴスペル風に弾きます。
第3回	ソロピアノ	ベースもドラムも無し、ピアノだけの場合の弾き方にチャレンジします。
第4回	リズムック／メロディックフェイク	リズムックはメロディーのリズムの変化、メロディックフェイクは装飾音符をつけたり、音を省いたり。
第5回	16バウンスの曲 ①	16バウンスのリズムをつかみましょう。16部音符を3連のりてハネて演奏します。
第6回	16バウンスの曲 ②	左手のリズムに気をつけて演奏します。
第7回	試験課題曲 練習	コードをしっかり押さえ、リズムに乗って演奏することが大切です。何度でも練習しましょう。
第8回	16バウンスの曲を演奏	一年間の集大成、とにかく楽しんで演奏してください。

学期末試験評価方法

メジャースケール、マイナースケール、どれだけ取り組めたか、課題曲にもどれだけ向き合っ演奏できたかを評価していきます。一曲弾けた時の達成感を知って、ますます楽しく取り組んでいくきっかけになるといいですね。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	ダンス&ヴォーカルトレーニングⅠ	青井智佳子

科目概要

音楽がそこにある時に、自然と身体が動き、揺れる、そんな事が出来る様になる為の科目です。ステージでカッコよくパフォーマンス出来るように、基本的なステップや動きを練習します。毎回の授業で一定のメニューでウォーミングアップや、ストレッチを行います。これらを覚えると、普段の自分のコンディション作りやその確認が出来るようになります。

到達目標

基本的なステップや動きを練習して、自分の中の引き出しに入れてもらいます。そして、慣れてきたら、その引き出しに保存されているネタから自分で様々に引き出してきて自由に踊れる、音楽に乗れる様にして行くことを目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業を受けるうえでの決まり事を含め、説明を行います。もちろん初回から体を動かして行きます。後半はリズム取りです。
第2回	ウォーミングアップについて	メニューの中で、主に上半身のほぐし方、ストレッチ方法等を学んで行きます。後半はリズム取りです。
第3回	下半身のストレッチ	足の指から腰あたりまでのストレッチの説明を行います。後半はリズム取り、ステップの基礎などを行います。
第4回	プリエについて	骨盤の意識の仕方、軸の説明を行います。後半はリズム取り、ステップの基礎を行います。
第5回	アイソレーションについて	アイソレーションの考え方、それがどのように必要なかを説明していきます。後半はリズム、ステップ練習です。
第6回	ウォーミングアップメニューのおさらい	試験範囲なので、細かく順を追ってカウントで動きを説明して、グループになって練習し覚えて行きます。
第7回	テスト	ウォーミングアップ、ステップなど、授業で行った範囲内で、実技試験します。

クォーター末試験評価方法

ウォーミングアップのメニューをしっかりと覚えればそれだけ点数は高くなりますが、欠席や遅刻などによる減点もありますので、テストの点数がそのまま成績となるわけではありません。授業態度も評価されます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダンス	簡単で短めの振付をし、踊って行きます。
第2回	ダンスの正確さ	ポージングを中心に、身体をどのように使うか、姿勢などのポイントを話して行きます。
第3回	ポージングで踊る	ポージングが決まると、それをただ繋げただけでもはやダンスになるということを話して行きます。
第4回	アイソレーションで踊る	アイソレーションを使って音楽に乗ることを行っていきます。
第5回	ステップの基礎	リズム取りのおさらいをして行きます。
第6回	ダンスの振り付け	毎回少しずつ進む振付の押さえてほしいポイントの説明をして行きます。
第7回	ダンスの振り固め	テスト範囲のダンスをたくさん練習します。
第8回	テスト	ダンスの実技テストです。一人ずつ行います。

学期末試験評価方法

欠席、遅刻、見学による減点、皆勤の場合は点数を加えます。ダンスの正確さ、アイソレーションやリズム取りの正確さ、またダンスのフィーリングの良さなどが、出せたかどうかで評価されます。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	ダンス&ヴォーカルトレーニングⅡ	青井智佳子

科目概要

春学期で身に着けたスキルと体カアップをもとに、振付も少し長くなっていきます。自己表現の手段の一つであるダンスを使って自分をよりかっこよく見せ、ステージでこうありたいと言う、自分のイメージに近づけていく事を行っていきます。

到達目標

ベースにあるリズムを一定に保ちながら、身体のいろんな部分をバラバラに動かして、「音楽が体を通っている」という感覚が身につくことを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の思い出	学び終わっている事の確認、思い出しを行います。
第2回	アイソレーションで乗る	アップのリズムの刻みながら首や肩、腰のアイソレーションを使って、フィーリングを出す方法を学びます。
第3回	乗りながら歩く事の応用	アイソレーションを使いながらリズムを取り、ウォーキングする事を学びます。
第4回	乗りながら歩く	より全身で乗り、グルーブ感を出す練習に入ります。
第5回	ステップ	今までやってきたステップの応用に入ります。
第6回	ダンスの振り付け	ステップを使ったダンスの振り付けを進めます。グループに分かれてお互いの良いところを見つけ情報共有します。
第7回	テスト	ダンスの実技です。

クォーター末試験評価方法

振りの正確さ、踊り方、リズム、リラックスできているかどうかをよく見ます。欠席、遅刻、見学、授業態度による減点がありますので注意してください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自己表現	自己表現の手段としてのダンスを歌と繋げて行きます。
第2回	自己表現(喜怒哀楽)	喜怒哀楽を身体で表すとどうなるか、ディスカッションを含めながら講義していきます。
第3回	表現の多様性	一定の縛りの中で、表現してもらいます。リズムを崩さず自分の表現を取り入れる練習に入ります。
第4回	ダンスの振り付け	ダンスの振り付けに入ります。自分でステップを考えて音楽に乗る練習もしていきます。
第5回	振付の確認	前回のおさらいをしながら更に振付を進めます。
第6回	アイソレーションの応用	前回までの振り付けを踊り、それがもっとダンスに見えてくるにはどうしたらよいのかを説明して行きます。
第7回	ダンスの固め	テスト範囲を何度も練習し、見せ方を研究してもらいます。
第8回	テスト	一人ずつの実技です。

学期末試験評価方法

授業で口頭で話をしているポイントを注意深く聞いているかどうかをよく見ます。振りの正確さと同じくらい、フィーリングの良さも評価します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシックテクニック I (Gt)	宮川章彦

科目概要

ギターについての基礎知識、チューニングから基本フォーム、左手、右手のテクニック、リズムなどを様々な楽曲を用いて学んでいきます。

到達目標

8ビートから16ビートまでの基本ピッキングテクニック、ストロークフォームの完成
ペンタトニックスケール、メジャースケール、マイナー2種の理解
パワーコード、トライアドコードの構成音の理解

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ギターの基礎知識と基本姿勢	基本フォーム、運指練習(クロマチックスケール) デイリートレーニングの理解
第2回	8ビートストロークとコードフォーム	リズム譜読みとトライアドコードフォーム 右手のオルタネイトストロークとリズムの一致
第3回	ペンタトニックスケール	ペンタトニックスケール5ポジション ペンタトニックスケール5ポジションの理解
第4回	チョーキング、ビブラートテクニック	チョーキングとビブラートのフォーム 左手のフォームの理解
第5回	バックイングコードワーク	課題曲 にてコードのバリエーション、動きなどを研究しますコード のつながりが良いかなど
第6回	ブルーススケール、ブルースの演奏	課題曲 クロスロード、スカットルバツェンにおいて、リフのリズ ム、アドリブなどを学びます
第7回	中間試験 ブルース課題曲の演奏	課題曲 クロスロード、スカットルバツェンにおいて、リフのリズ ム、ソロのスケールの理解などをみます

クォーター末試験評価方法

毎回の右手左手の基本フォームを重視します。試験課題的にはペンタトニックスケール5ポジションの理解とチョーキングテクニック、ビブラートテクニックをみます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	トライアドアルペジオ	エチュードを用いてトライアドアルペジオを理解します コードトーン理解
第2回	メジャースケールとポジション	様々なポジションでのメジャースケール。3ノートパースtringス でも覚えます メジャースケールの指板上での理解
第3回	シャッフル、3連のリズムとストローク	課題曲 イズントシーラプリーにて3連ストロークとメロディを研究し ます 3連ストローク、2拍3連の理解
第4回	3連のブルース	アドリブを3連を中心に展開します。 ペンタトニック3連で弾く
第5回	ハンマリングテクニック、 スライドテクニック	左手のテクニックとパワーを鍛えます。 色々なニュアンスを左手で出す
第6回	マイナースケール2種	課題曲 にてマイナースケールとハーモニックマイナースケールを 使ってアドリブします
第7回	16ビートストロークと テンションコード	リズム譜読みと16ビートカッティングを研究します より細かいリズムの理解
第8回	期末試験 16ビートカッティング	課題曲 ホワッツイズヒップにて16ビートカッティング 右手のストロークフォーム

学期末試験評価方法

入学時からの個人別のテクニック向上を評価します。
課題は3連、16ビートと細かいリズムへの対応です。出席、授業への意欲、毎回の小テスト的な演奏も重視
します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシックテクニクⅡ(Gt)	宮川章彦

科目概要

ギターについての基礎知識、チューニングから基本フォーム、左手、右手のテクニク、リズムなどを様々な楽曲を用いて学んでいきます。秋学期は課題曲の難易度が高くなっていきます。

到達目標

16分6連符などの細かい音価、ボサノバ、4ビートなどの楽曲への対応
 モードスケール、HP5などの理解
 4ノーツコード、テンションコード構成音の理解

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックコードとテンション	ダイアトニックコードの仕組みとテンションの関係 楽曲アナライズの理解
第2回	ソロギターとテンションコード	課題曲 ムーンリバーにてコードとメロディを一緒に弾きます テンションコードの流れの理解
第3回	バラードバックキング	課題曲 スルーザファイアのコードバックキング 良い流れでバックキングできるか
第4回	ダイアトニックコードのアルペジオ	4ノーツコードのアルペジオを練習します コードトーン理解
第5回	3連ロックバックキング&リフ	課題曲 グッバイエリノアのバックキング&リフ 正確な3連符
第6回	ロック高速リフ	課題曲 テクニカルディフィカルティーズのリフに挑戦 速い16符音符と6連符
第7回	中間試験 ロック系6連符	課題曲 においての速い16符音符と6連符

クォーター末試験評価方法

毎回の右手左手の基本フォームを重視します。試験課題的には速い16符音符と6連符というテクニカルな部分にチャレンジしてもらいます

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	16ビートカッティング&単音リフ	課題曲 ジャスアグループにて16ビートバックキング 単音バックキングとやや跳ねたフィール
第2回	JPOP バックキング	課題曲 オートマチック バックキング 細かいコードバックキングバリエーション
第3回	ボサノバ/1	ボサノバ、バックキングパターン基本編 右手の動き
第4回	ボサノバ/2	ボサノバ、バックキングパターン応用編 テンションコードバックキングワーク
第5回	4ビートとスタンダード1	課題曲 枯葉にてテンションコードバックキングワーク バウンス感とトゥファイブのテンション
第6回	4ビートとスタンダード2	課題曲 枯葉にてメロディ&オクターブ奏法 メロディを歌えるか
第7回	4ビートとスタンダード3	課題曲 枯葉にてHP5を使っのアドリブ トゥファイブの理解とHP5スケール
第8回	期末試験 4ビートとスタンダード	課題曲 枯葉にてバックキング、メロディ、アドリブ 4ビートとスタンダード トゥファイブの理解

学期末試験評価方法

入学時からの個人別のテクニク向上を評価します。課題は曲に合ったフィーリングが出せるかという事と細かいリズムへの対応です。出席、授業への意欲、毎回の小テスト的な演奏も重視します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシックテクニック I (Bs)	三枝俊治

科目概要

ベースとドラムのコンビで、様々なリズムパターンを研究しながら演奏法を学び、コンビネーションを強化してゆく授業です。実際の曲を題材に演奏することにより、様々なジャンル、スタイルを学び、よいグルーヴを身につけるよう練習します。曲目、順番は到達状況により変更する場合があります。

到達目標

各課題曲の持つリズムを、しっかりとしたビートを体で感じながら演奏する事を目標とします。ただ演奏出来れば良いという事では無く、ビートに乗って気持ちの良いリズムを演奏する事が大切です。ビート感の強化の為、メトロノームを裏で鳴らして演奏できるように練習します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	一年間の授業の全体像を説明し、何を学ぶ授業なのか把握してもらいます。自己紹介、ジャムセッションを行います。
第2回	シンプルな8ビートの演奏	Every Breath You Take を題材に、シンプルな8ビートの演奏を練習します。後半は8分音符裏のメトロノームに合わせて演奏します。
第3回	バラードの8ビートの演奏	You've Got A Friend を題材に、バラードの8ビートの演奏を練習します。セクション毎のダイナミクスの変化も意識して演奏します。
第4回	シンコペーションの演奏	Stand By Me を題材に、3拍目が抜けるシンコペーションの演奏を練習します。抜けたビートをしっかり意識しながら演奏します。
第5回	4拍目裏からのフレーズの演奏	You Really Got Me を題材に拍の裏から始まるフレーズを演奏します。裏と表のリズムをしっかりと意識できるように練習します。
第6回	速いビートとシンコペーションの演奏	My Sharona を題材に、早い8ビートとシンコペーションのキメを練習します。表のビートとシンコペーションの組み合わせを意識します。
第7回	8ビート全般の理解と演奏(試験)	What A Fool Believes を題材に、ビート、シンコペーション、曲のセクション毎のダイナミクスの変化を演奏します。

クォーター末試験評価方法

全てのリズムの土台となるビートをしっかりと感じながら演奏できているかが重要なポイントとなります。8分音符の裏が正確に演奏できるかどうか確認します。日常の努力により身に付けていなくてはならない技術、センスですので、出席を重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロックのシャッフルの演奏	Black Night を題材に、ロックのシャッフルのグルーヴを練習します。しっかりとしたビートと3連符を意識したリズムの演奏です。
第2回	3連系バラードの演奏	You Really Got A Hold On Me を題材に、3連系リズムのバラードの演奏を練習します。
第3回	ソウルのシャッフルの演奏	Isn't She Lovely を題材に、ソウルミュージックのシャッフルの演奏を練習します。2拍3連の感覚も意識して演奏します。
第4回	ソウルのバウンスの演奏	Sir Duke を題材に、バウンスと呼ばれるリズムの演奏を練習します。跳ねる感じを意識しながら演奏します。
第5回	3連符と2拍3連の演奏	Hold The Line を題材に、3連符と2拍3連が混在するリズムの演奏を練習します。基本のビートと2拍3連の組み合わせを意識します。
第6回	ハーフタイムシャッフルの演奏	Home At Last を題材に、ハーフタイムシャッフルの演奏を練習します。ゆったりとしたビートと細かいリズムを同時に意識します。
第7回	速いシャッフルの演奏	Goodbye Elenore を題材に、速いシャッフルのロックの演奏を練習します。スピード感と跳ねるリズムを共存させます。
第8回	3連符系リズムの理解と演奏(試験)	Goodbye Elenore の演奏をテストします。しっかりとしたビート、3連のリズムが演奏できているか確認します。

学期末試験評価方法

しっかりとしたビートを刻みながら、3連符のリズムを正確に演奏できているかが評価の基準になります。成績は演奏結果40%、1クォーターの成績40%、平常点20%で評価します。出席を重視するので、遅刻一回マイナス1点、欠席一回マイナス3点を算入します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシックテクニックⅡ(Bs)	三枝俊治

科目概要

16ビートやラテンのリズムは1拍を細かく分割して捉える「サブディヴァイド」が重要です。秋学期ではより良いグルーブで演奏する為に、サブディヴァイドをトレーニングしていきます。また、同じテンポの中でリズムに変化をつけるなど、より高度なアンサンブルができるように学んでいきます。

到達目標

3クォーターは16ビートの正確なサブディヴァイドが演奏できるようになる事が目標です。4クォーターは様々なスタイルを学び、自分の演奏に取り入れられるようにする事が目標です。ラテンやブラジリアン、ジャズなどのエッセンスをバンドの中でどのように表現するか学んでいきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	16ビートのベースラインとドラムパターンの演奏	I Want You Back を題材に、アレンジされたベースラインとそれに合わせたドラムパターンを演奏します。
第2回	ポップスの16ビートの演奏	Let's Dance Baby を題材に、ドラムとベースの組み合わせがしっかりアレンジされている演奏をします。
第3回	ファンクの16ビートの演奏	Chameleon を題材に、ある程度フレーズの決まったファンクの演奏を練習します。
第4回	より自由なファンクの16ビートの演奏	The Chicken を題材に、より自由な形でのセッション的なファンクの演奏を練習します。
第5回	フュージョンの16ビートの演奏	Just The Two Of Us を題材に、フュージョン系の16ビートの演奏を練習します。
第6回	ロックの16ビートの演奏	Georgy Porgy を題材に、ロックのアレンジの中にある16ビートのサブディヴァイドの演奏を練習します。
第7回	16ビート全般の理解と演奏(試験)	Georgy Porgy の演奏をテストします。ビートを感じ、サブディヴァイドがしっかり演奏できているかを確認します。

クォーター末試験評価方法

しっかりとしたビートと16分のサブディヴァイドを意識した演奏ができているかが評価の基準になります。一朝一夕には身に付かない技術、センスですので出席を重視し、日常の努力の結果が見られるかどうかを加点していきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ボサノヴァのリズムの演奏	The Girl From Ipanema を題材に、ポップスの8ビートとは違うボサノヴァのリズムの演奏を練習します。
第2回	サンバのリズムの演奏	Tristeza を題材に、サンバのパターンを練習します。ボサノヴァと同じくブラジリアンのリズムの特徴を学びます。
第3回	モータウンのスタイルの演奏	You Can't Hurry Love を題材に、モータウンスタイルのシャッフルの演奏を練習します。
第4回	レゲエのスタイルの演奏	豚レゲエ を題材に、レゲエの特徴的なドラムパターン、ベースパターンの演奏を練習します。
第5回	6/8とサンバのチェンジの演奏	Footprints を題材に、6/8拍子のパターンとサンバのパターンを交互に入れ替えて演奏します。
第6回	ソングのリズムの演奏	Blue Bossa を題材に、1拍目の頭が休符になるソングのリズムのパターンを練習します。
第7回	アフロとスウィングのチェンジの演奏	On Green Dolphin Street を題材に、アフロのリズムとスウィングが交互に入れ替わる演奏の練習をします。
第8回	スタイルがチェンジする演奏(試験)	On Green Dolphin Street を題材に、様々なスタイルを入れ替えて演奏することができるかを確認、評価します。

学期末試験評価方法

スタイルの変化に対応する演奏力を確認し、評価します。成績は演奏結果40%、3クォーターの成績40%、平常点20%で評価します。出席を重視するので、遅刻一回マイナス1点、欠席一回マイナス3点を算入します。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	インプロヴィゼーション I (Gt)	山本 圭右

科目概要

ギターにおけるスケール全般を扱います。
メジャー 及びマイナースケール、ペントニックを理解し演奏できるようにします。
併せて読譜力を養います。

到達目標

メジャー 及びマイナースケール、ペントニックを理解し演奏できるようにします。
併せて読譜力を養います。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メジャースケール(I)	ピックの握り方 運指などベーシックなテクニックの確認及び5ポジションCメジャースケールを学びます
第2回	メジャースケール(II)	ピックの握り方 運指などベーシックなテクニックの確認及びCメジャースケールのダイアトニックを学びます
第3回	マイナースケール	3種類のマイナースケールを学び その違いを理解します
第4回	ペントニックスケール(I)	5ポジションのペントニックスケールを学びます
第5回	ペントニックスケール(II)	ベンディング及びビブラート等のテクニックを学び、演奏します
第6回	リスニングアナルシス	楽曲を聴きアナライズし演奏します
第7回	試験	クォーター末試験

クォーター末試験評価方法

既成曲、又はオリジナル曲を用い、1曲を通しての演奏力を評価します
また、生徒の授業態度・出席率も併せて評価します。試験50% 授業態度25% 出席率25%
<テキスト> レジューメ配布

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メジャースケール(III)	12のキーのメジャースケールを学びます
第2回	アルペジオスタディ	ダイアトニックのアルペジオを学びます
第3回	コードストラクチャー(I)	コードの5つの基本フォームを学びます。 メジャースケールとコードフォームの関係を学びます。
第4回	コードストラクチャー(II)	コードのポジションを考えて楽曲を演奏します。
第5回	イントロアナライズ	様々な楽曲のイントロをアナライズし、演奏します
第6回	ポップギターテクニック(I)	様々な楽曲のコンピング、ソロを含めてアナライズし、演奏します
第7回	ポップギターテクニック(II)	様々な楽曲のコンピング、ソロを含めてアナライズし、演奏します
第8回	学期末試験	学期末試験、実技演奏。

学期末試験評価方法

既成曲、又はオリジナル曲を用い、1曲を通しての演奏力を評価します
また、生徒の授業態度・出席率も併せて評価します。試験50% 授業態度25% 出席率25%
<テキスト> レジューメ配布

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	インプロヴィゼーションⅡ(Gt)	山本 圭右

科目概要

ギターにおけるスケール全般を扱います。
メジャー 及びマイナースケール、ペンタニックをさらに深く理解し演奏できるようにします。
併せて読譜力を養います。

到達目標

メジャー 及びマイナースケール、ペンタニックをさらに深く理解し演奏できるようにします。
併せて読譜力を養います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアン	ドリアンを理解し演奏できるようにします
第2回	フリジアン	フリジアンを理解し演奏できるようにします
第3回	リディアン	リディアンを理解し演奏できるようにします
第4回	ミクソリディアン	ミクソリディアンを理解し演奏できるようにします
第5回	エイオリアン	エイオリアンを理解し演奏できるようにします
第6回	ロクリアン	ロクリアンを理解し演奏できるようにします
第7回	クォーター末試験	クォーター末試験

クォーター末試験評価方法

既成曲、又はオリジナル曲を用い、1曲を通しての演奏力を評価します
また、生徒の授業態度・出席率も併せて評価します。
<テキスト> レジューメ配布

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セカンダリードミナント	セカンダリードミナントについて考察します
第2回	シャッフル	ブルースを演奏します
第3回	コードストラクチャー(Ⅲ)	エクステンションについて学びます
第4回	アルペジオスタディ	様々なコードのアルペジオを学びます
第5回	クラシカルライン	正確なピッキングによるクラシカルラインを演奏します
第6回	ボーカルバックギン(Ⅰ)	ピッキングによるアルペジオコンピングを学びます
第7回	ボーカルバックギン(Ⅱ)	指弾きによるアルペジオコンピングを学びます
第8回	学期末試験	学期末試験。実技演奏

学期末試験評価方法

既成曲、又はオリジナル曲を用い、1曲を通しての演奏力を評価します。
また、生徒の授業態度・出席率も併せて評価します。
<テキスト> レジューメ配布

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	インプロヴィゼーション I (Bs)	高山毅

科目概要

インプロヴィゼーションとは即興演奏のことを指しますが、いわゆる即興のアドリブソロだけでなくベースライン作りやフィルイン、作曲、アレンジまで含めて学んでいきます。まずはきちんとした理論を理解した上でベースの演奏や作曲に生かしていく必要があります。

到達目標

自分のバンドやベースを演奏する授業等で、まずコードトーン、ペンタトニックスケールを意識して演奏出来る様にしましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	はじめに 1	チューニング、楽典、指板上の音の確認等
第2回	はじめに 2	フォーム、フィンガリング、ピッキング
第3回	コードとは	コードの種類、形、押さえ方
第4回	ダイアトニックコード	メジャーキーのダイアトニックコード
第5回	スケールとは	スケールの種類、形、押さえ方
第6回	ダイアトニックスケール	メジャーキーのダイアトニックスケール
第7回	試験	ダイアトニックコード、ダイアトニックスケール

クォーター末試験評価方法

出席を重視します。積み重ねて学習していく内容のため、欠席してしまうと次の授業の内容が理解しづらくなってしまい他の学生にも迷惑がかかります。日常的な練習で内容の理解を確実なものにしていくことが大切です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ペンタトニックスケール 1	メジャー&マイナーペンタトニック
第2回	ペンタトニックスケール 2	ブルーノートを含むペンタトニックでのベースライン
第3回	ペンタトニックスケール 3	ペンタトニックでのアドリブ
第4回	ブルース 1	ブルースのベースラインとアドリブ
第5回	ブルース 2	マイナーブルース
第6回	1コード 1	m7th
第7回	1コード 2	7th
第8回	試験	ブルースと1コード

学期末試験評価方法

出席を重視します。積み重ねて学習していく内容のため、欠席してしまうと次の授業の内容が理解しづらくなってしまい他の学生にも迷惑がかかります。日常的な練習で内容の理解を確実なものにしていくことが大切です。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	インプロヴィゼーションⅡ(Bs)	高山毅

科目概要

一通りコードトーンやスケールを覚えたら次はその使い方です。実際の楽曲の中で生かせなければ意味がありません。コードもスケールも結局は自分の持っているサウンドのイメージを表現するための道具に過ぎません。自分のイマジネーションと演奏を結びつけていきましょう。

到達目標

オリジナル曲を演奏する場合はベースライン作り、カバー曲、コピー曲の場合は自分なりのフィルインやバリエーションのある演奏をすることに役立てていきましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアンモード	ドリアンスケールを用いたベースラインとソロ
第2回	ミクソリディアンモード	ミクソリディアンスケールを用いたベースラインとソロ
第3回	リディアンモード	リディアンスケールを用いたベースラインとソロ
第4回	マイナースケール	3種類のマイナースケールとマイナーキーでのダイアトニックコード
第5回	様々なスケール 1	リディアン b 7th、オルタード等
第6回	様々なスケール 2	ホールトーン、デミニッシュ、コンディミ等
第7回	試験	各種スケールを用いたベースラインとアドリブ

クォーター末試験評価方法

出席を重視します。積み重ねて学習していく内容のため、欠席してしまうと次の授業の内容が理解しづらくなってしまい他の学生にも迷惑がかかります。日常的な練習で内容の理解を確実なものにしていくことが大切です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	代理コード	使用出来る代理コード
第2回	セカンダリードミナント	セカンダリードミナントの種類
第3回	コードプログレッション 1	メジャー進行
第4回	コードプログレッション 2	マイナー進行
第5回	曲を使った演習 1	Cissy Strut
第6回	曲を使った演習 2	Imagine
第7回	曲を使った演習 3	Is'nt She Lovely
第8回	試験	上記使用楽曲の中から出題

学期末試験評価方法

出席を重視します。積み重ねて学習していく内容のため、欠席してしまうと次の授業の内容が理解しづらくなってしまい他の学生にも迷惑がかかります。日常的な練習で内容の理解を確実なものにしていくことが大切です。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	インプロヴィゼーションⅠ	山村牧人

科目概要

ドラムセット演奏法の基礎である「叩き方」の確認と習得を行います。オールラウンドな演奏を目指し、特定のジャンルに限らず新旧ドラム界で発展してきたテクニックや音楽の現場で求められる奏法を理解し演習します。

到達目標

新旧ドラム界で発展してきた演奏法の中心軸を理解し、基本として習得することを目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベーシック・グリップ・セオリー	ロック、ポップスのジャンルで使われるスティック・グリップの種類と使い分け、身体の使い方の違いを演習します。
第2回	ベーシック・フットワーク	バスドラムのペダル・テクニックの種類と練習方法を学びます。
第3回	初歩的なコンビネーションとコール&レスポンス	ドラムセット演奏法の基礎となる、手足のコール&レスポンスの理解と演習。4分～8分音符主体です。
第4回	アクセント&ストローク	ダイナミクスやアクセント表現のためのHeight ControlとTip Speedの加減速の演習。
第5回	4～8thビートスタイル	アメリカン・ロックフィール＝8th note feelを中心としたスタイル演習とグルーヴの理解を広めます。
第6回	アクセント&フレーズ	アクセント移動を使ったフレーズ・トレーニング。譜面演習と、暗算的な即興アプローチによって、フレーズの展開を学びます。
第7回	クォーター試験：リズムパターンとフィルイン演奏	指定されたフォームとスタイルの中で、基本的なリズムパターンやオリジナルのフレーズを盛り込み演奏します。

クォーター末試験評価方法

授業での平常点を主として、試験演奏に現れる習得度や練習の達成度を加えて評価します。
試験点：30% / 平常点：50% / 出席点：20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	16分音符の基本と音型	ベーシックなフットワークと16分音符を組み合わせた音型エクササイズ演習。
第2回	16分アクセント&シンコペーション	16分音型のアクセント・バリエーションとシンコペーションのドラムセットへの展開応用。
第3回	3連符の基本と音型	3連系の音符の理解、手順の考え方や種類と、手足のコンビネーション演習。
第4回	3連符アクセント&スピードアップ	3連符のアクセント・ワークとスピード・アップに関するストロークセオリーの紹介。
第5回	混合音符とエチュード・エクササイズ	2拍3連、4拍3連の演習、4分～8分～3連～16分のチェンジアップと混合音型のエチュード演習。
第6回	3連系ビートスタイル	トリプレッツ、シャッフルのグルーヴ・スタイル演習
第7回	16系ビートスタイル	学内のアンサンブル系授業を想定したリズムパターン演習
第8回	学期末試験：基本的フィール・チェンジ	4th～8th～16th～3連系のリズムフィールを混在させたエチュードの実技演奏

学期末試験評価方法

ポピュラー・ミュージックで一般的、常識的に求められる奏法の理解と習得度により評価します。
試験点：30% / 平常点：50% / 出席点：20%

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	インプロヴィゼーション II	山村牧人

科目概要

基本的なパターン奏法の習得を前提に「叩くことから奏でること」へ、グルーヴと称されるビート表現と奏法の関連性をつかみながら、音楽的な表現へ向けて奏法の演習を重ねます。

到達目標

ドラムセットの奏法の歴史と変遷を理解し、古いものから新しいものまで、主体的に奏法を選択することを目的とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グリップ強化	スピード、パワー・アップを目指したより高度なグリップの考え方とエクササイズ
第2回	リズム・キープとクリック	ストロークの安定などドラミングの動作とテンポ・キープの考察とエクササイズ演習
第3回	ダイナミクス表現	フィンガーコントロールからボディ・ショットなど、ダイナミクス表現のためのスティック&ペダルワーク
第4回	チューニングとセッティング	チューニングの方法論、目的、プロ・ドラマーのサウンドに対する考え方の理解。ドラムセッティングのセオリーと実践。
第5回	バックビート・スタイルの種類	ロック・ドラミングの基本となるバックビート・スタイルの種類と展開演習。
第6回	ファンク・スタイルと16thバスドラム音型	16th feelの意味とファンクスタイル、バスドラムのバリエーションとスリッ・ビートの演習。
第7回	クォーター試験:リズムパターンの展開	複数のスタイルをつなげて展開させる実技演奏。

クォーター末試験評価方法

演奏の安定度と、アドリブとしてのアイデアやフレージングを展開させる演奏力を確認します。
試験点:30% / 平常点:50% / 出席点:20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メトリカル・アッチェランド	全音符～32分音符までのチェンジアップとストローク使い分けと、テンポ・コントロール。
第2回	コンビネーション・テクニック(1)	高度なコンビネーション・ワークの準備としての、エレメンタリーな身体的トレーニング
第3回	コンビネーション・テクニック(2)	バスドラムによるオスティナート奏法と、アクセント移動によるインプロヴァイズ展開。
第4回	コンビネーション・テクニック(3)	ハイハット&ライド・バリエーションとレガート系フレーズを使ったコンビネーション演習
第5回	ドラム・アンサンブル	ドラムセット2台以上を使用したドラム・アンサンブル演習
第6回	ベーシック・ポリリズム	ハーフ&ダブルタイムから複合拍子までの紹介と演習
第7回	ドラム・パート演習	本学期に演習した奏法を盛り込んだドラム・パート譜に基づいた実技演奏の準備
第8回	クォーター試験:パート譜演奏	ドラム・パート譜を用いて、定型演奏とアドリブ・パートを行います。受講人数に応じてアンサンブル演奏とする場合もあります。

学期末試験評価方法

バンド・アンサンブルを想定した演奏の着眼点や、テンポキープや曲展開などのテクニックを、各自の習得度に応じて評価します。
試験点:30% / 平常点:50% / 出席点:20%

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	リズムセクションワークス I	加藤直紀

科目概要

ギター、ベース、ドラムという基本的な構成によるアンサンブルの授業です。1年春学期ではロック系の課題曲を使用し、主に8ビート、シャッフル系のリズムを学びます。また他の楽器とのコミュニケーションを学びながらセッション形式で進めていきます。基本的に1曲を2週にわたってマスターしていきます。

到達目標

基礎的な8ビート、シャッフルのリズムでの演奏技術をマスターすること、またその中でそれぞれの曲に必要なテクニック、アドリブなどもマスターしていくことが主な目標になります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	8ビート 1-1	課題曲「Etude in A Minor」でミディアムテンポの重い8ビートの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第2回	8ビート 1-2	課題曲「Etude in A Minor」でミディアムテンポの重い8ビートの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第3回	8ビート 2-1	課題曲「Etude in A7」で速いテンポでの8ビートの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第4回	8ビート 2-2	課題曲「Etude in A7」速いテンポでの8ビートの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第5回	8ビート 3-1	課題曲「Armed And Ready」でハードロックの8ビートをマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第6回	8ビート 3-2	課題曲「Armed And Ready」でハードロックの8ビートをマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第7回	試験	このクォーターで学んだいずれか1曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気表現できたかを確認します。

クォーター末試験評価方法

試験30%、平常点30%、出席率40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	シャッフル 1-1	「Black Night」or「Detroit Rock City」で基本的なシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第2回	シャッフル 1-2	「Black Night」or「Detroit Rock City」で基本的なシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロも取り入れていきます。
第3回	シャッフル 2-1	「Higher Ground」or「Goodbye Ekenore」でシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第4回	シャッフル 2-2	「Higher Ground」or「Goodbye Ekenore」でシャッフルのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロも取り入れていきます。
第5回	シャッフル 3-1	「Into The Arena」で8/12拍子での演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第6回	シャッフル 3-2	「Into The Arena」で8/12拍子での演奏をマスターしていきます。2週目はソロも取り入れていきます。
第7回	シャッフル 3-3	「Into The Arena」で8/12拍子での演奏をマスターしていきます。3週目は更に完成度を高めていきます。
第8回	試験	このクォーターで学んだいずれか1曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気表現できたかを確認します。

学期末試験評価方法

試験30%、平常点30%、出席率40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	リズムセクションワークスⅡ	加藤直紀

科目概要

3クォーターでは16ビート系の練習曲、そして最後のクォーターでは今まで学んだことのまとめ、および変拍子、スリップビート等を使った曲でさらなる演奏力の向上、アンサンブル能力、セッション能力の向上を目指します。

到達目標

基礎的な16ビートから変拍子など、様々なリズムでの演奏技術をマスターすること、またその中でそれぞれの曲に必要なテクニック、アドリブなどもマスターしていくことが主な目標になります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	16ビート 1-1	「Immigrant Song」で重い16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第2回	16ビート 1-2	「Immigrant Song」で重い16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第3回	16ビート 2-1	「Walkin' Naked Thru A Blubell Field」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第4回	16ビート 2-2	「Walkin' Naked Thru A Blubell Field」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第5回	16ビート 3-1	「Girl Goodbye」or「Led Boots」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第6回	16ビート 3-2	「Girl Goodbye」or「Led Boots」で16ビートのリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第7回	試験	このクォーターで学んだいずれか1曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気表現できたかを確認します。

クォーター末試験評価方法

試験30%、平常点30%、出席率40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	まとめ(変拍子) 1	「Jake To The Bone」or「Scatterbrain」で変拍子のリズムでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第2回	まとめ(変拍子) 2	「Jake To The Bone」or「Scatterbrain」で変拍子のリズムでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第3回	まとめ(スリップ) 1	「Triple Fighter」でスリップビートのあるシャッフルでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第4回	まとめ(スリップ) 2	「Triple Fighter」でスリップビートのあるシャッフルでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第5回	まとめ(速いシャッフルとスリップ) 1	「Morse Man」でスリップビートのある速いシャッフルでの演奏をマスターしていきます。1週目はバックイングメインで行います。
第6回	まとめ(速いシャッフルとスリップ) 2	「Morse Man」でスリップビートのある速いシャッフルでの演奏をマスターしていきます。2週目はソロ(アドリブ)も取り入れていきます。
第7回	まとめ(速いシャッフルとスリップ) 3	「Morse Man」でスリップビートのある速いシャッフルでの演奏をマスターしていきます。3週目は更に完成度を高めていきます。
第8回	第8回目の授業(試験)テーマ	このクォーターで学んだいずれか1曲の演奏で、該当する曲の課題をマスターし、また雰囲気表現できたかを確認します。

学期末試験評価方法

試験30%、平常点30%、出席率40%、出席を重視します。アンサンブルの授業であることや同じ課題を何週かに渡って続けることから、欠席してしまうと他の学生に迷惑がかかります。あとは、積極的な授業態度であること、予習復習をすること、そしてただ上手く演奏すれば良いのではなく自分なりに楽しんで演奏することが大切です。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	スコアリーディング I	松永加津子 他

科目概要

音楽の基礎知識を学びます。簡単な楽典、新曲視唱、聴音を学習していきます。譜面が読めて、理解し、書けるようになるための授業です。しっかりと学習してほしい、大切なクラスです。コツコツ勉強して、実力を高めてください。

到達目標

音の読み方、譜面を書くために必要な記号、音符の長さ、曲の進行に関する記号など、基礎の基礎からスタートします。わかっているつもりにならず、初歩から確認しながらしていきます。2度、3度の音程の新曲視唱、同じく聴音も2度3度の音程から学習し、慣れていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎プリント	音部記号、五線、小節線、音の読み方、記号、音符の長さ、拍子、音符の高さなど、基礎の基礎からスタートします。
第2回	基礎プリント	前回の復習+曲の進行を表す記号、音楽表記の記号など、譜面を読む、理解する、書くのに必要な記号を学びます。
第3回	楽典①・新曲視唱・聴音	毎回、簡単な楽典プリントを勉強します。少しずつ知識を増やし、譜面の理解力をつけましょう。
第4回	楽典②・新曲視唱・聴音	新曲視唱は何キーの曲か、主要3和音を考えてから歌っていきます。はじめは2度3度の音程の短い曲からスタートです。
第5回	楽典③・新曲視唱・聴音	聴音は、新曲視唱と並行して、同じ2度3度の音程の、2小節の短い聴音からスタートします。
第6回	楽典④・新曲視唱・聴音	毎回、楽典、新曲視唱、聴音を学習します。少しずつ高度になっていきますが、しっかり学習しましょう。
第7回	新曲視唱と聴音	一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音(2~4小節)をします。

クォーター末試験評価方法

新曲視唱は、大きな声ではっきり歌えるかをチェックします。自信がなければ、ゆっくり歌っても大丈夫です。聴音は、短い小節をしっかり聞いて、分かるまでチャレンジしてもオッケー、やり方を覚えてください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典⑤・新曲視唱・聴音	4度5度音程の新曲視唱、聴音は8ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニングになります。
第2回	楽典⑥・新曲視唱・聴音	4度5度音程の新曲視唱、8ビートのイヤートレーニング、まずはリズム聴音からです。
第3回	楽典⑦・新曲視唱・聴音	新曲視唱は、グループに分かれて、伴奏したりハーモニーを工夫したりして発表する形で歌います。
第4回	楽典⑧・新曲視唱・聴音	新曲視唱、毎回違うメンバーで相談して発表していきます。聴音は16ビートのリズムに合わせて聴き取るイヤートレーニング。
第5回	楽典⑨・新曲視唱・聴音	新曲視唱は、グループで工夫して発表していきます。16ビートのイヤートレーニングは、リズム聴音から。
第6回	楽典⑩・新曲視唱・聴音	新曲視唱、グループで練習していく事に慣れ、ハーモニーを楽しんでください。イヤートレーニングは、8、16両ビートで。
第7回	楽典⑪・新曲視唱・聴音	新曲視唱のグループ発表形式は今回でošimai。楽しく歌ってください。聴音もリズム聴音に慣れていきましょう。
第8回	新曲視唱と聴音	一人ずつ新曲視唱、全体で短い聴音(4~6小節)をします。

学期末試験評価方法

新曲視唱の前に、歌う曲のキーと主要3和音を言えるようにしましょう。聴音は、まずリズム聴音をしっかり出来るようになるといいですね。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	スコアリーディングⅡ	松永加津子 他

科目概要

秋学期は、譜面を読み、譜面を理解し、そして、譜面を書いていくスキルをアップさせていきます。4/4拍子の譜面の書き方、3/4拍子、6/8拍子はどう書くか、読みやすい譜面を作る勉強していきます。

到達目標

1オクターブまでの音程を歌ったり聴き取ったりします。新曲視唱では、クリスマスソングやラテンポップスにもチャレンジします。また、手拍子付き視唱も学習します。聴音では、シャッフルや16バウンスのビートの書き方なども学びます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典12・新曲視唱・聴音	5度6度の新曲視唱、聴音は読みやすい4/4拍子の書き方で聴き取っていきます。
第2回	楽典13・新曲視唱・聴音	5度6度新曲視唱、3/4拍子と6/8拍子の聴音、書き方やリズムの取り方を考えましょう。
第3回	楽典14・新曲視唱・聴音	シャッフルのイヤートレーニング、まずリズム聴音でビート感に慣れ、シャッフルの表記の仕方も気をつけます。
第4回	楽典15・新曲視唱・聴音	7度1オクターブまでの音程の新曲視唱、シャッフのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
第5回	楽典16・新曲視唱・聴音	16バウンスのイヤートレーニング、リズム聴音から始めて、16バウンスの表記も気をつけます。
第6回	楽典17・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、16バウンスのリズムイヤートレーニングは名曲のフレーズを参考に学習します。
第7回	新曲視唱と聴音	新曲視唱は一人ずつ、聴音は全体で聴き取り試験を行います。

クォーター末試験評価方法

新曲視唱は、音程がしっかりしているかをチェックしますが、大きい声で元気に歌うようにしてください。キーと主要3和音をしっかり答えられるように。聴音で聴き取ったフレーズを、移調したり、1オクターブ下げたりします。これまで学習してきた楽典の成果を見せてください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典18・新曲視唱・聴音	新曲視唱はクリスマスソング、2声でハモってみましょう。聴音もゴスペル風なりズム聴音にチャレンジ。
第2回	楽典19・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、聴音も8小節の聴き取り方を練習していきます。
第3回	楽典20・新曲視唱・聴音	新曲視唱は、これまでの旋律だけの斉唱に加えて、手拍子付き聴音にチャレンジしていきます。
第4回	楽典21・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き視唱、和音の聴音が新しい課題として入ってきます。
第5回	楽典22・新曲視唱・聴音	1オクターブまでの音程の新曲視唱、手拍子付き聴音、和音の聴音など。
第6回	楽典23・新曲視唱・聴音	書くためのスキルアップとして、各拍子の書き方をもう一度復習して確認します。
第7回	楽典24・新曲視唱・聴音	様々なラテンポップスや、民謡などを、楽しんで視唱していきます。
第8回	新曲視唱と聴音	新曲視唱は一人ずつ、聴音は全体で聴き取り試験を行います。

学期末試験評価方法

まず、譜面が読めること、理解すること。新曲視唱は一人ずつ行います。キーと主要3和音、しっかり答えましょう。その後全体で聴音。移調やオクターブの上げ下げ、身につけて欲しいスキルです。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	音楽理論 I	斉藤かんじ 他

科目概要

20世紀に出現し現在に至るまで、商業音楽の最前線にあるポップミュージック。そのコード理論を中心にポップミュージックを理論的にアナライズし、自己の作品制作、楽器演奏に活用できるであろう知識を学びます。テキストとして「ポピュラー音楽基礎講座」を使用し、春学期では最も基礎となる項目を学習します。

到達目標

2音間の音程から和音・コードの響きが生まれていること、コードネームからその構成音を把握できること、そして各コードの機能を理解し、基本的なコード進行のヴァリエーションを習得することを到達目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	記譜の基礎	五線譜、譜表、音名、音部記号、拍子記号、音符、休符、臨時記号、などの記譜の基礎。
第2回	スケールと調号	メジャー／マイナー・スケールと調号について。
第3回	音程1	完全音程、長音程、短音程、減音程、増音程などの音程の種類とその仕組み。
第4回	音程2	複合音程、音程の転回について。
第5回	コード1	トライアド(三和音)とセブンスコード(四和音)の構造。
第6回	コード2	コードトーンとテンションノートについて。
第7回	クォーター末試験	筆記試験。(調号、音程、基本的コードの知識を中心として出題)

クォーター末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード3	コードの転回形(インバージョン)、ボイスリーディング、オープン/クローズ・ボイスイングについて。
第2回	ダイアトニック・コード1	ダイアトニックコードの種類と構造、その汎用性について。
第3回	ダイアトニック・コード2	ダイアトニックコードの機能と代理機能について。
第4回	ダイアトニック・コード3	ダイアトニックコードの代理機能を利用したりハモニゼーションについて。
第5回	ルートモーション1	5度進行、ドミナントモーション、II-V-Iについて。
第6回	ルートモーション2	4度進行、3度進行、順次進行について。
第7回	ケーデンス	コード進行における様々な終止形について。
第8回	学期末試験	筆記試験。(1・2クォーターで学習した内容と用語について出題)

学期末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時に勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	斉藤かんじ 他

科目概要

春学期に学習した三和音と四和音の構造、そしてメジャー・キーにおけるダイアトニック・コードのハーモニーを軸に、さらにそのボキャボラリーと知識を増やしていきます。春学期同様にテキストとして「ポピュラー音楽基礎講座」を使用、秋学期も常に基礎にレビューしながら学習していきます。

到達目標

春学期以降学習してきた基礎理論のより確実な習得と、おそらくコード理論の中で最重要項目であろうセカンダリ・ドミナントセブンスとモーダルインターチェンジの理論的仕組みが理解出来ることを到達目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セカンダリ・ドミナント1	セカンダリ・ドミナントの仕組みについて。
第2回	セカンダリ・ドミナント2	セカンダリ・ドミナントを用いたⅡ-Vの進行について。
第3回	セカンダリ・ドミナント3	セカンダリ・ドミナント、テンションノートを用いたよりリッチな響きと進行について。
第4回	マイナー・キーのダイアトニック・コード1	ナチュラルマイナー・スケールのダイアトニックコードと機能について。
第5回	マイナー・キーのダイアトニック・コード2	ハーモニックマイナー・スケール、メロディックマイナースケールのダイアトニックコードと機能について。
第6回	マイナー・キーのコード進行	3種類のマイナー・スケールのダイアトニックコードを用いたコード進行について。
第7回	クォーター末試験	筆記試験。(セカンダリ・ドミナント、3種類のマイナースケールを中心に出题)

クォーター末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	モード・モーダルな曲	教会旋法及びモードジャズの基礎的知識と作曲技法について。
第2回	モーダル・インターチェンジ1	同主調他のマイナースケールからの代表的な借用和音とコード進行について。
第3回	モーダル・インターチェンジ2	同主調他のマイナースケールからの代表的な借用和音とコード進行について。
第4回	モーダル・インターチェンジ3	ドリアン、ミクソリディアン、リディアンなどのモードからの代表的な借用和音とコード進行について。
第5回	コードスケール1	ドミナントセブンス、セカンダリー・ドミナントコード使用時に使うことの出来るコードスケールについて。
第6回	コードスケール2	モーダル・インターチェンジ使用時に使うことの出来るコードスケールについて。
第7回	ブルース	ブルースのフォーム、ハーモニー、メロディについての考察。
第8回	学期末試験	筆記試験。(春学期、秋学期を通して学習した知識、用語について出题)

学期末試験評価方法

出席 30% 平常点 30% 試験 40% として評価します。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	オリジナル動画制作 I	磯田昌宏

科目概要

動画編集ならびに動画制作の基本を学ぶ。
撮影から編集、動画制作をセルフプロデュースで行い、ネット上へアップロードする。
どれだけ多くの人に見て貰えるかに重点を置いて動画制作に取り組めるか。

到達目標

多くの人に見て貰えるように考えて動画制作ができる。
動画(映像)を活用したセルフプロモーションが考えられる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	イントロダクション	自己紹介と授業の狙い、進め方、評価方法 学生とのディスカッション
第2回	動画の原理を学ぶ	動画サイズやフォーマット、カメラ、スマートフォンに関して学ぶ
第3回	喜怒哀楽を学ぶ	動画の特性、動画にはどんな種類があるのか？
第4回	PV/MVの表現を学ぶ	PVとは、MVとは、音楽(音)の効果とは？
第5回	再生回数が多い映像表現を学ぶ	PVやMVに限らず人気の動画の秘密を探る
第6回	映像表現の技巧を学ぶ	どんなテクニックが動画に使用され、どんな効果を生んでいるか 演出家(ディレクター)を意識する
第7回	筆記試験及びレポート	1Qまとめ

クォーター末試験評価方法

出席:50%
提出物(レポート/試験):30%
積極性:20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	動画を創る	スマートフォンでの動画撮影から動画編集ツール(Premiere)を使ってオリジナル動画を作成する
第2回	動画フォーマットを学ぶ	撮影サイズ、動画サイズやフォーマット、動画形式など
第3回	動画の取り込みから編集①	撮影から取り込み、IN点OUT点の把握、書き出し方法
第4回	動画の取り込みから編集②	エフェクト、トランジション、テロップの効果、BGM・NAの取り込み方法
第5回	作品構成	企画、絵コンテ、撮影、自身の考えや想いを可能な限り映像化する
第6回	60secの動画制作①	個別指導①
第7回	60secの動画制作②	個別指導②
第8回	60secの動画制作③ 動画提出	個別指導③ 2Qまとめ

学期末試験評価方法

出席:60%
提出物(映像課題):40%

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	オリジナル動画制作Ⅱ	磯田昌宏

科目概要

動画編集ならびに動画制作の基本を学ぶ。
撮影から編集、動画制作をセルフプロデュースで行い、ネット上へアップロードする。
どれだけ多くの人に見て貰えるかに重点を置いて動画制作に取り組めるか。

到達目標

多くの人に見て貰えるように考えて動画制作ができる。
動画(映像)を活用したセルフプロモーションが考えられる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	提出映像視聴	提出動画のレビュー&アナリシス
第2回	動画発信	世界に向けて動画を発信するYouTubeにアップロードし広がり方を分析効果的な手法を学んでいく
第3回	アカウント作成 アップロード	自身のアカウントを作成し、動画をアップする方法を学ぶ
第4回	理解度テスト	これまでに身につけた知識を確認、自身がなぜ動画で表現をするのか考えられているか。
第5回	オリジナル動画制作① (企画・構成)	3Q5回目～4Q末にかけて「オリジナル動画」制作 個別指導①
第6回	オリジナル動画制作② (構成)	個別指導②
第7回	オリジナル動画制作③ (撮影)	個別指導③

クォーター末試験評価方法

出席:50%
提出物:30%
積極性:20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリジナル動画制作④ (撮影・編集)	個別指導④
第2回	オリジナル動画制作⑤ (編集)	個別指導⑤
第3回	オリジナル動画制作⑥ (編集・書き出し)	個別指導⑥
第4回	オリジナル動画制作⑦ 動画のアップロード	個別指導⑦ (冬休み明け1回目の授業を予定)動画提出&アップロード
第5回	動画プレゼン①	全員で各自が制作した動画視聴(プレゼン) ディスカッション①
第6回	動画プレゼン②	全員で各自が制作した動画視聴(プレゼン) ディスカッション② 総評
第7回	1年間の纏め①	動画視聴 映像表現、演出方法のディスカッション①
第8回	1年間の纏め②	1年間の纏め 映像表現、演出方法、ディスカッション②

学期末試験評価方法

出席:50%
提出物(映像課題ほか):20%
ディスカッションへの参加率:30%

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	コンピュータミュージック I	井上善彬

科目概要

DAWソフト「Cubase Artist8」を使用して、現在の音楽業界において楽曲制作の大きな割合を占める手法「DTM」の基礎を学ぶ授業です。

授業に必要なもの：USBフラッシュメモリ、ヘッドフォン（イヤフォンと変換プラグでも可）、筆記用具

到達目標

春学期にはCubaseの使い方やMIDI規格とはなにかを学びながら、MIDIデータの打ち込みの基本的なやり方を身に付けていきます。学期終了時に課題曲のトラックを一つ完成させることを目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	パソコンの基礎知識について。文字を打つ、ファイルの管理方法など、今後の授業に必要な知識の確認をします
第2回	Cubaseの立ち上げ	Cubaseを立ち上げ、打ち込みを始めるまでの準備をします。音源の設定方法などを学びます
第3回	打ち込んでみよう1	ドラムエディターを使いドラムを打ち込みます。簡単な8ビートの打ち込みを目標にします
第4回	打ち込んでみよう2	キーエディターをつかって単音のメロディを打ち込みます。音名を知り、休符やタイの読み方も覚えます
第5回	打ち込んでみよう3	キーエディターを使って和音の打ち込みをします。アルペジオの仕組みを知り、コードについて考えます
第6回	MIDIとは何か	DTM用語やMIDIの成り立ち、パソコンの周辺機材について学び、MIDIの概念を理解します。
第7回	筆記試験	Cubase及びMIDIの基礎知識に関する問題を出します

クォーター末試験評価方法

ストーリー性のある授業なので、連続して出席することが理解への早道です。クォーター末試験はMIDIに関する基本的な知識を問うものばかりなので、しっかり授業を受けていれば高得点が期待できます。

出席点40%、平常点20%、試験点40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	譜面の読み方	課題を配布し、譜面に従って打ち込みをしてもらいます。譜面を正しく読むことが目標です
第2回	ステップ入力1	ステップ入力を使って和音を入力し、リズムもつけてみます。より効率的な打ち込みを目指します
第3回	ステップ入力2	クオンタイズを変化させて3連符を打ち込んでみます。サステーンを使い、音の繋がりを表現します
第4回	楽器の特性を知る1	リアルタイム入力を学びます。MIDIキーボードを使ってギターのチョーキング、アーミングを表現してみます
第5回	楽器の特性を知る2	スラップベースの打ち込みをします。プルやゴーストノートを知り、リアルなサウンドを目指します
第6回	楽器の特性を知る3	オープン、クローズハイハットの使い分け、フラム等のドラムの奏法を学び、よりリアルなサウンドを目指します
第7回	効率的な打ち込みを	キーボードショートカットを覚えます。コピー&ペースト、反復複製を用いて、作業の効率化を目指します
第8回	課題曲の打ち込み	制作課題に取り組み、完成品をデータにて提出してもらいます

学期末試験評価方法

課題曲の情報量が多いので、いかに効率よく打ち込めるかを考えることが大切です。授業で学んだ効率化の方法を思い出して取り組みましょう。作品は打ち込みの完成度を評価します。

2クォーター分合計の、出席点40%、平常点20%、試験点40%

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	コンピュータミュージックⅡ	井上善彬

科目概要

春学期に学んだMIDIデータの打ち込みをさらに進めます。各楽器の特徴や特性を踏まえ、臨場感あふれるトラックを制作する方法を身につけましょう。新たな製作技法として、MIDIループやコードトラックを使い、思い通りの表現をできるようにします。

到達目標

学期終了時には、それまで学んだ全ての知識やテクニックを駆使し、個別にオリジナル曲、もしくは既成の楽曲のトラックを一つ完成させることを目標にします。通常授業の時間内に作品制作の時間をとりますので、渾身の一曲を仕上げましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードトラック	コードトラックを使い、様々なポインティングやコードネームの作り方、打ち込み方を学びます
第2回	コードパッド	コードトラックのコードをコードパッドに登録し、指一本でのコードバックングをしてみます
第3回	Mediabay	MediabayからMIDIループ素材を検索し、並べてみます。ループ素材で伴奏を作ることで楽曲を色々なアレンジにしてみましょう
第4回	コードトラックにリンク・追従	Mediabayから選んだ素材をコードトラックにリンクさせます。自分で打ち込んだ音をコードに追従させてみます
第5回	インスペクターとチャンネル設定	エフェクターやイコライザーについて知りましょう。高度なクオンタイズから、スイング値を変更してみましょう
第6回	Groove Agent SE	ドラムのVSTiであるGroove Agent SEを使ってみます。サイドチェインを使って、効果的なサウンドを作ってみましょう
第7回	筆記試験	ここまで学んできた製作技法に関する問題を出します

クォーター末試験評価方法

ストーリー性のある授業なので、連続して出席することが理解への早道です。クォーター末試験は製作技法に関する基本的な知識を問うものばかりなので、しっかり授業を受けていれば高得点が期待できます。

出席点40%、平常点20%、試験点40%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	テンポトラック・拍子トラック	メドレー形式の楽曲を打ち込み、途中でテンポや拍子を変えてみます
第2回	オートメーション	オートメーションを使い、フェードインやフェードアウト、オートパンを作ってみます
第3回	リファレンス音源	トラックスプリットを使って参考音源をプロジェクトに表示させ、音作りの上達を目指します
第4回	トランスポーズ	トランスポーズ機能を使った移調や、移調トラックを使った転調を学びます
第5回	マーカートラック	マーカートラックを使ってセクションに名前をつけ、効率的に打ち込めるようにします
第6回	コードのシンコペーション	コードがシンコペーションする部分を作ります。また、コードトラックだけでリズムを作る方法を学びます
第7回	作品制作	個別に目標を定めトラックを作ります。リファレンス音源をよく聴き、楽曲の完成度を高めましょう
第8回	作品提出	制作課題に取り組み、完成品をデータにて提出してもらいます

学期末試験評価方法

作品データから、今まで学んだ製作技法を理解して使っているかどうかを見ます。個別に違う楽曲を作ることになるので、トラックの完成度も評価に大きく影響します。

2クォーター分合計の、出席点40%、平常点20%、試験点40%

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
春	ジャンル研究 I	河野 裕一

科目概要

日頃、皆さんが聴き、演奏をしていることが多いROCK、POPS。
ROCK誕生から現在に至るまでの大まかな流れと、スタイル・流行の変遷などを知ることにより、それぞれのジャンルへの理解を深めます。
いずれは皆さんの「音楽の引き出し」となります。

到達目標

自分の音楽造りの参考とするべく、誕生から現在までの流行やアーティスト、世の中の流れなどを知識として取り込みます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ROCK誕生!!	アメリカにおけるROCK AND ROLLの誕生 R&BとR&Rの違いは?
第2回	I IV I I IV I I V I I	BLUES ROCK、イギリスでの流行を知ります。
第3回	PLEASE PLEASE ME	THE BEATLES、THE ROLLING STONESなどイギリスにおける ROCKの流行を知ります。
第4回	PSYCHEDELIC	Psychedelic Rockについて理解をしてみよう。
第5回	WOODSTOCK①	Richie Havensから
第6回	WOODSTOCK②	Jimi Hendrixまで。Woodstockが語り継がれる理由について考えて みます。
第7回	ROCK誕生からWoodstockまで	これまでの授業内容の中から出題される筆記試験となります。

クォーター末試験評価方法

出席50%、平常点(小テストなど)20%、クォーター末試験30%で評価をします。
ノートは必需品です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	What I'd Say	Black Music、この回はSOUL MUSICについての理解を深めます。
第2回	Smoke On The Water	1960年代後半から70年代前半の BRITISH HARD ROCKについて知っておきましょう。
第3回	The Wall	ライトショーからアートとの融合へ、 PROGRESSIVE ROCKについて理解を深めます。
第4回	Ziggy Stardust	げげげげささとキャッチーさ。DAVID BOWIE 他のGLAM ROCKに ついて知識を深めます。
第5回	1970年代の音楽事情	WOODSTOCK Fes以降のアメリカのロックシーンについて。 このころ力を付けていたのは誰?
第6回	少々異端の音楽を	今でもフォロワーの多いKISSとQUEENについて知ります。
第7回	God Save The Queen	PUNK ROCK誕生とその時代背景について。
第8回	いろいろなROCKについて	2クォーター授業内容に関しての筆記試験となります。

学期末試験評価方法

出席50%、平常点(小テストなど)20%、クォーター末試験30%で評価をします。
ノートは必需品です。

プロミュージシャン学科

学期	科目名	担当講師
秋	ジャンル研究Ⅱ	河野 裕一

科目概要

ROCKの大まかな流れと、スタイル・流行の変遷などを知ることにより、それぞれのジャンルへの理解を深めます。

秋学期は現在流行している音楽などを、皆さんからも発信していただきます。

到達目標

自分の音楽造りの参考とするべく、誕生から現在までの流行やアーティスト、世の中の流れなどを知識として取り込みます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アーティスト紹介①	一人ひとりが一番興味のあるアーティストを紹介。それぞれがまとめてくれたものを発表します。
第2回	アーティスト紹介②	一人ひとりが一番興味のあるアーティストを紹介。今年はどうなアーティストが紹介されるのか楽しみです。
第3回	アーティスト紹介③	一人ひとりが一番興味のあるアーティストを紹介。今年はどうなアーティストが紹介されるのか楽しみです。
第4回	THE ONE	FUNK MUSICについて理解を深めましょう
第5回	No Woman, No Cry	世界遺産ともなったジャマイカにおけるレゲエを聴きレゲエとレゲエ風の違いを知ります。
第6回	NEW WAVE	NEW WAVE? OLD WAVEとは何?? HR, PROGRE, GLAMとの違いは何でしょう。
第7回	3クォーター授業内容についての試験	3クォーターでは、これまでの授業内容についてのレポート提出をしていただきます。

クォーター末試験評価方法

出席50%、平常点(小テストなど)20%、クォーター末試験30%で評価をします。
ノートは必需品です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	汚いよりきれいな方が	New Romanticsのアーティストについて知っておきましょう。
第2回	Video Killed The Radio Star	MTV放送開始。その役割とMVの変遷について知ります。
第3回	N.W.O.B.H.M.	N.W.O.B.H.M.っていったい何???
第4回	DRUM SETも動かせる	L.A.METAL, GLAM METALと呼ばれる音楽について知ります。
第5回	Smells Like Teen Spirit	Teen Spiritとははたして何? Alternative Rockについて理解を深めます。
第6回	Wanderwall	90年代からのBRIT POP, ROCKIについて
第7回	風をあつめて	日本のROCK、大先輩たちの音楽も聴いておきましょう。
第8回	ROCKの誕生から現在まで	授業内容についての確認試験(筆記)を行います。

学期末試験評価方法

出席50%、平常点(小テストなど)20%、クォーター末試験30%で評価をします。
ノートは必需品です。